ヌエバ

NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう…

国際公認球 検定球

42H301WBK
42H201WBK・WR
●手縫い●天然皮革●42枚パネル

SBHB作戦盤

検定球

HSH1
●手縫い●天然皮革●1号球

小学校試合球

国際公認球 検定球

42H310WBK● 42H210WBK/WR
●手縫い●天然皮革●42枚パネル

全国中学校大会試合球

株式会社 モルテン

東京本社　東京都墨田区横川5丁目5番7号　TEL(03)3625−7581(代)
東京・大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言

21世紀に向けた広報・企画の充実

（財）日本ハンドボール協会常務理事

川上　憲太

たくさんの障害を乗り越え日本のハンドボール界が一丸となって大成功を収めたアジアで初めての熊本男子世界選手権大会により広報企画部門にも直接的間接的に多くの財産が残りました。この財産をベースに20世紀最後のオリンピックであるシドニー五輪、21世紀の初頭を飾るであろう大阪オリンピック（招致活動中）と将来のハンドボール界の発展のために一つ一つ具体的目標を掲げ活動に入らねばなりません。

第一に、メディア媒体への積極的アプローチです。メディアとして考えられるものは①テレビ②ラジオ③新聞④雑誌の4つが従来型としてありますが、現在はインターネットをはじめとする今までにない情報媒体が生まれてきて協会としてもすでに活動に入っています。まずテレビ・ラジオですが、すでにスカイAで女子の世界選手権を放映していますように多チャンネル化が進むことによる基本的な対策を考えております。ローカルテレビにも多局化の波を受け番組作りに苦労をしていますので各地の協会に広報部門を設置し積極的な地元へのアプローチも必要です。今年は日本リーグにストックランとヴォルという世界的プレイヤーが登場しNHK、テレビ東京、読売新聞、日経新聞他でマスコミに取り上げられました。また、12月のアジア大会ではNHK・BSチャンネルで4試合放映予定です。今後もNHKとは全日本総合選手権はもちろん（放映は決定）日本リーグプレーオフ中継等放映枠の拡大を交渉中です。新聞・雑誌等につきましては東京記者クラブ、広島記者クラブとのコミュニケーションに加え、中部地区、関西地区、九州地区、北陸地区にも視野を広げて記者クラブとの連携の再構築に努力していかなければと考えております。

第2に、協賛企業の拡大への努力であります。現在の日本現在はいまだかつて経験したことのない不況の真っ只中にあります。片や、少子化や学校教育からクラブチーム化への移行に伴う青少年チームの減少、競技人口の減少等の問題も避けて通れません。このような状況の中で、現在協会が進めている役員登録や「がんばれハンドボール10万人会」のサポーター会員募集等に絶大なるご理解を頂いて関係者全員で進めていかなければいけないと考えております。

さらに、不況とはいえハンドボールに声援をいただける各企業を財界人リスト・各大学OBリストを中心に時間をかけながら幅広く広報活動に努め、財務体質の強化を背景に協賛企業の拡大の活動を続けていきます。活動の基本となる「協賛募集パンフレットの作成」「ハンドボールグッズの開発」につきましては現在考案・作成中です。

第3に、ハンドボール文化の高揚であります。この件につきましては、市原専務理事が10月号の機関誌で述べられている通りですが、「現在のスポーツ界の流れ」「それに我々はどう対処していかねばならないか」「地域社会に密着したスポーツ文化の発祥」「ハンドボール界では選手・審判・役員・OB・父兄・サポーター参加によるメジャー化（10万人体制）」「ビーチハンドボール・車椅子ハンドボールの普及」「小・中学生への普及」「U—16、U—19、U—23の重点強化」などが掲げられておりますが、早急に「JHA21世紀ビジョン」の立案を行い、ハンドボール全員参加の啓蒙活動に向けて動き出します。

最後に、今期の広報部門のメインテーマはシドニー五輪出場に向けての男女ナショナルチームのPRであります。皆様、アジア大会における選手の活躍に絶大なるご声援をお願いしますとともに、来春早々に始まる日本リーグ後期にたくさん足を運んで世界的プレイヤーとしのぎを削る全日本選手そして各チームにご声援下さいますようお願い申し上げます。

協会だより

平成10年10月度常務理事会（拡大常務理事会）

日　時
10月17日（土）
10時00分～16時00分

場　所
代々木第二体育館　会議室

出席者
中澤副会長、市原専務理事、常務理事8名、ブロック理事長5名、監事1名、事務局3名
＊10時より12時まで各本部会議を開催

拡大常務理事会

1　新会員制度について
新会員登録（案）資料に基づき、新会員登録制度について説明がなされた。全員参加の理念に基づき、登録制度、登録金の見直しを行い、ハンドボール界の活性化のため、普及対策、ジュニア対策、ナショナル選手育成制度、協会運営費などに活用することを目的とする。一般会員は、「がんばれハンドボール10万人会」の仮称とし、各方面で検討を重ね、11月22日全国理事会へ提案する。

2　その他
平成10年度JOCジュニアオリンピックブロック予選補助金が、協賛スポンサーの辞退でなくなったことについて、年度途中でもあることから、本年度に限り日本協会より補助することを決定。
国体ブロック出場枠について、平成12年度までは現行の算出方法で決定していることが確認された。

【報告事項】
故荒川名誉顧問の偲ぶ会を11月8日に実施
シドニーオリンピックアジア予選について、12月バンコクでのアジアハンドボール連盟通常総会で決定する。

常務理事会

■総務本部
①役員ユニフォームについて検討
②ハンドボールシンボルマーク募集について、賞金、副賞を出すことを承認

■競技本部
①'98ジャパンカップに参加のオーストラリアチーム来日について、来日費用を補助することを承認。参加チームを報告。本大会前後で、実業団チームと親善試合を実施。
②第50回全日本総合選手権大会について、平成10年度神戸で男女同時開催で実施。12月26日決勝戦をNHK教育TVの全国ネットで放映を報告。
'98ジャパンカップと合わせ広告協賛を要請。
③公認審判員規定における終身審判員の管理資格について、改定を承認。

■強化事業本部
①強化関連特別会計第2次補正予算を承認。
②ドーピングテストについて、1998年より2000年に向け試行および適用期間を報告。本年度は日本リーグプレーオフとトレーニング時に実施。
③アジア大会で実施予定であった'99年男子世界選手権予選が、急遽東西アジアに分かれて実施することを報告。このため、男子ナショナルの国体不参加のための手続きを依頼。
今後の対応のための団長、副団長を承認。

【報告事項】

■総務本部
①第53回国体日本協会役割分担について了承。
②平成10年度全国理事長会議について、内容等の報告。
③第5回アジア女子ジュニア選手権大会の収支並びに中間決算報告。

■競技本部
①'98フェスティバルについて、12月に東京体育館で実施計画の報告があり、再検討となった。
②平成10年度登録について9月30日現在の報告があった。

■強化事業本部
①スポンサー「サンクス」について、次年度よりの協賛がほぼ確定した報告があり、条件等をふまえ、マニュアルおよび計画書を作成、都道府県協会、大会開催本部へ協力依頼することとなった。
②全ナショナルチームの国内・国際大会の実績と今後の大会予定の報告。
③日本リーグ関連のTVK放映カードと10月15日現在の結果報告。

神田清氏 勲五等瑞宝章を受章

前大阪ハンドボール協会会長の神田清氏が、このほど勲五等瑞宝章を受章なされました。神田氏は大正13年大阪に誕生、昭和19年に日本体育専門学校(現日本体育大学) をご卒業なされています。現在では、昭和22年に興されたジーエル商事株式会社の取締役を務められています。

同氏は、日本ハンドボール協会黎明期より選手としてご活躍なされ、昭和17年に関西送球協会委員に就任なされました。以来、関西地域のハンドボールの普及発展に尽くされました。これらのご活躍が高く評価され、昭和26年に大阪ハンドボール協会より推され、日本ハンドボール協会理事にご就任なされています。この後、日本ハンドボール協会理事、常務理事として、特に企業経営者としての感覚を生かし、財務関係でご活躍をなされております。昭和56年の日本ハンドボール協会の法人化に当たっては、基金を担当し今日の日本ハンドボール協会の基盤作りにご功績を残されました。

さらには、少年層の育成についてご努力をなされ、ＪＯＣジュニア・オリンピック・カップ大会の創設にもご功績のあることは、ご存じの方も多いかと思います。

神田清氏の勲五等瑞宝章受章に対し、心からお慶び申し上げるとともに、今後のますますのご発展と、ご活躍を祈念致します。

日本協会 ハンス・バウマン・トロフィーを受賞

(財)日本ハンドボール協会は、このほど国際ハンドボール連盟より「ハンス・バウマン・トロフィー」を受賞いたしました。

ハンス・バウマン・トロフィーは、1950年から1971年までＩＨＦ会長を務めた故ハンス・バウマン氏(スペイン) を記念してＩＨＦ会員協会のその国、地域、あるいは世界中でハンドボールの発展と普及に特別の功績のあった協会に贈られる賞です。この賞は、２年に一度ＩＨＦ通常総会にて授与されます。

日本協会は、皆様ご記憶に新しい1997年第15回男子世界選手権大会を、これからの世界大会の見本になるだろうとＩＨＦの役員も絶賛するほど大成功させたことが評価され、今回の受賞となりました。

さる９月にコートジボアールで開催されたＩＨＦ通常総会において、エルビン・ランツ会長より授与されましたので、日本のハンドボール愛好者の皆様にご報告いたします。

全国理事長研修会

1998年10月23日(土)
於:Lプラザ

杉山茂氏（元NHKスポーツ報道センター長）講演会

国体の総合開会式終了後、横浜・石川町にあるＬプラザで元ＮＨＫスポーツ報道センター長の杉山茂氏による講演会が開催された。杉山茂氏の講演は、恐らくはご自身の日頃からの緻密な取材活動に基づく莫大な資料（データ）と、正しい時代認識に基づいており、ハンドボールを限りなく愛する一市民の立場を常に忘れずに、しかし、極めて客観的な立場から、ハンドボールを取り巻く環境の変遷と、今後のハンドボールのあるべき姿について、約１時間半に渡り、聴衆を常に魅了させながら進められた。読者の皆さんに直接お聞かせしたいような素晴らしい講演会であった。なお、今回の講演会は、先頃急逝された故荒川清美氏に捧げたいと、杉山茂氏が言われていたことも敢えて付記しておく。

◆講演会要旨

最近25年間のスポーツ界を考えてみると、２つの大きな歴史的事件があり、これを転機にスポーツ界は大きく変わっていった。

ひとつは、１９７４年、国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）が、その憲章から「アマチュア」の字句を一切削除したことであり、もうひとつは、１９８９年の東西ドイツの統一に象徴される、東西の壁の崩壊である。

１９７４年の事件は、ステート・アマチュア（国家丸抱えのアマチュア）により金メダルを独占してきた「東側」諸国対「西側」諸国の対立の構図から生じたものである。憲章から「アマチュア」の字句がなくなった結果、これ以後、スポーツは事業として捉えられるようになっていくのであった。スポーツ界は、このような重大な転機を迎えたのだったが、１９７２年のミュンヘン・オリンピックで、念願の「オリンピック復活」を果たしたばかりのハンドボール界にはこの時大きな反響はなかった。

しかし、ハンドボールでも「東側諸国」の優位は続いていった。男子のオリンピック優勝国で見ると、復活を果たしたミュンヘン大会では旧ユーゴスラヴィアが、その後のモントリオール（旧ソ連）、モスクワ（旧東ドイツ）、ロスアンゼルス（旧ユーゴ）、ソウル（旧ソ連）、バルセロナ（旧ＣＩＳ諸国）、そして、アトランタ（クロアチア）に至るまで、「東側諸国」または「旧東側諸国」が常にメダルを独占してきた。こう見ていくと、最近でこそ、女子で韓国やデンマークの台頭が見られるようにはなってきたが、ハンドボールではいまだに「東側諸国」の優位が続いていると言える。

しかし、１９８９年の事件は、それまでの「東側諸国」対「西側諸国」という従来の対立の構図を大きく塗り替えるものとなった。この事件以降、プロフェッショナル選手が国際的に容認されるようになり、遂に、１９９４年のＩＨＦ総会は、その規約改正の条文中に「プロフェッショナル」という言葉を登場させる、画期的な会議となった。１９９７年の世界選手権の開催地が、日本の熊本に決まった会議でもあったが。

それ以後プロ化の道は、欧州諸国でとどまる所を知らず、特に、ドイツのブンデス・リガは、ＥＵの統合による「ＥＵ域内の選手は外国人と見なさない」という規約に基づき、欧州各地からナショナル・レベルの選手が集まり、ブルデス・リガは、ハンドボールのＮＢＡかと言われるほどの隆盛を極めるに至っている。

このようなプロ化の流れは、遂にあらゆるスポーツの「賞金化」を促すようにもなってきた。陸上競技やテニス等のスポーツでは、賞金の高さや得やすさを見て、選手が大会参加を決めているのが現状である。我がハンドボール界もご多分に漏れず、本年９月のＩＨＦ総会で、世界選手権の賞金問題が検討された。早ければ２００１年のフランス大会より、総額１、０００万円（優勝国には５万スイスフラン：約４００万円）の賞金を懸ける計画という。

このような頂点に対する懸賞金の導入とは別に、ＩＨＦでは普及に対してもお金をかけるべきであるという意見も依然根強い。先に述べたようにスポーツの事業化によって得た収益金を、ハンドボールの「未実施国」や「発展途上国」に投資していくという提言である。

ＩＨＦは、最初極めてヨーロッパ的な団体であったが、今日では地球的規模で物事を考える団体へと変貌してきている。１９９９年のエジプトでの男子世界選手権の参加国の実に半数以上が欧州以外の諸国であることからもお分かり頂けよう。今、ＩＨＦでは、小さな国々に、如何にハンドボールを普及させていくかという問題に取り組んでいる。キューバのナショナル選手をフランスとハンガリーのリーグに預け選手を育成しても

らっているのも、その一例である。日本も、愛知県のチームがタイのチームをサポートしたり、湧永製薬がオーストラリアに行って指導したりするなど途上国の普及活動に一役買っている。

いつの日か、マカオや西サモアといったハンドボールが普及されたばかりの国々から、日本に選手を預かってくれないかと頼まれた時、預かれるだけの度量が持てる国になって欲しいと思うし、また、預からなければならないのではないかとも思う。

このような、国境を超えた活動の狙いは、競技人口を如何に増やすかということである。現代は情報化社会と言われているが、情報伝達媒体であるマスコミが、ある競技スポーツを媒体価値（「メディア・バリュー」）のあるものとして見なし、取り上げる目安を、日本国内では少なくとも10万人の競技人口を持つものとしている。つまり、10万人に満たない競技スポーツは、「メディア・バリュー」がないものとして取り上げてもらえなくなるということである。今日の状況で、これはその競技スポーツにとって死を意味するに等しい。

本日から始まった国体で、読売新聞は、その記録の掲載を取りやめている。大会新記録が出れば書くが、そうでなければ「メディア・バリュー」がないので取り上げないということなのだ。地方紙にとっては国体は一大スポーツイベントなので掲載されることになると思うが、全国紙レベルではどうなっていくか。

以上のような厳しい環境の中で、日本協会が打ち出された「ハンドボール・ファミリーの団結」に両手を挙げて賛成したい。事態は急を告げている。皆さんが自分のチームを愛するように、ハンドボール協会を愛しましょう。皆さんにハンドボール協会を愛する気持ちがないと、ハンドボール競技は滅びる可能性もある。

皆さんの団結により競技人口を増やし、「メディア・バリュー」のある競技といわれるようにすべきではないか。競技スポーツとしてのハンドボールばかりではなく、生涯スポーツ（楽しむスポーツ）としてのハンドボールの普及、即ち、少人数でもできるビーチ・ハンドボールや障害を持つ方々のための車椅子ハンドボールの普及にも力を入れていくべきではなかろうか。これまで以上に都道府県協会の充実が望まれ、日本協会と同じ視点と視野でハンドボールを見つめる姿勢、体制が欲しいということになる。

◆理事長会議・議事録

日時：1998年10月23日（土）
場所：横浜・Lプラザ
出席者：市原専務理事、常務理事6名、各協会理事長27名、各連盟理事長4名、事務局3名

1　常務理事自己紹介

2　専務理事挨拶（市原専務理事）
・故荒川清美氏を偲ぶ会：11月8日（日）に実施
・「世界の潮流と日本国内の動きをよく見てスポーツを振興する」「情報開示（ディスクロージャー）を広報を中心に行う」という2つの柱を軸に日本協会の運営をしている。

3　野田常務理事（強化事業本部）より
(1)世界選手権アジア地区予選について
(2)ジャパンカップについて
(3)日本リーグについて

4　大西常務理事（競技本部）より
競技人口減少問題について
・187チーム、約5、500人の競技人口が減少した。
・マスター・ハンドボール、ビーチ・ハンドボール、障害者ハンドボール等を普及させることにより、仲間を増やしていきたい。

5　殿水常務理事（総務本部）より
(1)新会員登録制度について
(2)登録金値上げについて
(3)ハンドボールのシンボルマーク公募について

6　質疑応答

1999年男子世界選手権東アジア予選
日本ナショナルチーム残念ながら出場権を逸する

開催まで多くの問題を起こした1999年男子世界選手権大会、東アジア予選が、11月3日から5日まで、中国の北京で行われた。日本ナショナルチームは、準備不足もあり残念ながら、来年の世界選手権の出場権を逃すこととなった。

第1戦　日本対中国
石景山体育館　観衆4000

日本	前半	後半	中国
21	9	12	23
	12	11	

大観衆の応援の中、試合が始まった。非常に日本の動きが堅く3連続失点でスタート。中盤さらにリードを広げられたが、終盤盛り返し日本の3点ビハインドで折り返す。後半、やっと同点にしたのが残り5分。ここで逆転のチャンスはあったが、ボンミス、確率の悪い攻めで、中国を優位に立たす。何とも後味の悪いゲームであった。気持ちを切り替え、次の韓国戦に全力を尽くす。

第2戦　日本対韓国
石景山体育館　観衆2000

日本	前半	後半	韓国
15	4	10	25
	11	15	

本日勝って、WCに出場したかったが、終ってみれば大敗という結果。接戦は前半の10分までであった。

天皇杯は地元神奈川県が獲得
皇后杯は石川県が獲得
―少年男子では、横浜商工が三冠達成―

第53回国民体育大会かながわ・ゆめ国体は、"おお汗　こ汗"のスローガンのもと、神奈川県横浜市横浜文化体育館、平沼記念体育館、横浜市立大学体育館、神奈川大学体育館で成年の部が、川崎市とどろきアリーナで少年の部が、10月25日から29日まで開催された。大会は、直前の男子世界選手権予選変更のため、ナショナル選手が不出場となった。

注目の天皇杯は、昨年総合優勝の大阪、4種別とも出場の埼玉、愛知、三重と地元神奈川の争いと見られたが、ナショナル選手の不出場もあり、有力候補が次々と敗退していく中、少年女子の大活躍もあり地元神奈川が獲得した。

皇后杯は、成年女子で優勝した石川県が獲得した。少年女子で優勝した地元神奈川は、2位となった。

【成年男子の部】
本田技研が11年ぶり2回目の優勝

大会直前に1999年男子世界選手権東アジア予選が開催されることになり、ナショナルチームメンバーは、急遽予選に参加のため選手交代をすることとなった。本田技研はチーム内の変更であったが、大同特殊鋼は愛知選抜とチーム名を変更し、トヨタ車体との連合で大会に望んだ。広島選抜はもともと湧永製薬と日新製鋼の連合であったが、6名の選手が交代することとなった。

大会の展開は、ナショナル選手が抜けたといえども選手層の厚さを誇る日本リーグ勢が順当に駒を進めた。地元神奈川は、初戦立ち上がり地元のプレッシャーからか、非常に堅く、11分には8－2とリードを許したが、この後なんとかもちなおし逆転で2回戦へと駒を進め、天皇杯獲得ポイントを稼いだ。

【準決勝】

広島 26（14－6、12－10）16 東京

［戦評］開始早々、両者ハードなボディーチェックでディフェンスをする。6分が経過したところで1－1、広島は源内、田場の得点により攻撃のリズムをつかむ。16分には東京チーム4枚目の警告で退場者が出て、広島はこの2分間、貝田のサイドシュートできっちりと2－0、ここから流れは一気に広島に傾き、前半を16－6と大きくリードする。後半は広島が8点のリードを活かしたゲーム運びをして余裕ある勝利を収めた。

【準決勝】

三重 18（8－8、10－7）15 愛知

［戦評］試合開始から愛知は三重の斉藤、加藤をマンツーマンで封じる作戦に出る。しかし、三重は池辺、羽賀の高さを活かした守りからの速攻で主導権を握る。立て続けに退場者を出した愛知は苦戦を強いられるが、清水が豪快に打ち込み、21分に逆転。しかし三重も斉藤の7MTで追いつき、8－8で前半を終える。後半8分から愛知はディフェンスを変えるが、三重はバランス良く得点を重ね3点をリードする。ここで愛知はディフェンスを戻し、清水の強打で1点差に詰め寄ったが、他に攻め手が見当たらず攻撃が単調になる。一方の三重は落ち着きを取り戻し、守りを固めて逃げ切った。

【3位決定戦】

愛知 21（12－10、9－10）20 東京

［戦評］前半5番荻本のミドル、11番柴田のサイドシュートなどで得点を重ねた愛知が、3番飯島のロング、6番渡辺の7MTなどで追い上げる東京に2点差をつけて折り返す。後半10分11番湯井のサイドシュートで一度は逆転に成功し

"かながわ・ゆめ国体"成績

男子総合成績《天皇杯》		
第1位	神奈川県	102.5点
第2位	石川県	62.5点
第3位	兵庫県	57.5点
第3位	広島県	57.5点
第5位	山梨県	52.5点
第5位	愛知県	52.5点
第7位	三重県	50点
第8位	熊本県	45点
第8位	大分県	45点

女子総合成績《皇后杯》		
第1位	石川県	62.5点
第2位	神奈川県	50点
第3位	兵庫県	45点
第3位	熊本県	45点
第5位	岩手県	40点
第5位	栃木県	40点
第7位	宮城県	35点
第7位	富山県	35点

た東京だったが、残り5分、6番渡辺の退場の間に、愛知11番柴田のサイドシュート、8番清水のステップシュートを決められ逆転を許し、逃げ切られた。

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
[愛知]				[東京]	
0	渡辺	1	1	宇田川	0
5	佐藤	2	2	五島	0
0	南川	3	3	飯島	5
1	松本	4	4	長岡	2
6	荻本	5	5	中川	0
0	植木	6	6	渡辺	7
2	市原	7	7	須藤	4
2	清水	8	8	布田	1
0	中谷	9	9	酒井	0
1	松本	10	10	田中	0
4	柴田	11	11	湯井	1
0	荻田	12	12	元村	0
21	計	(仲田、	植村)	計	20

【決勝】

三重 20（12―10、8―9）19 広島

【戦評】前半の立ち上がり、三重笹浪のサイドシュートや速攻などで4―1と三重が好スタートをきった。徐々にエンジンのかかってきた広島であるが、三重GK四方の再三のファインセーブに阻まれ追いつくことができず、12―10で前半を終了。後半2点を追う広島は開始から斉藤・加藤にダブルマンツーマンをつける。これが功を奏し三重はリズムを失い、11分には遂に追いつかれ一進一退の攻防となる。残り4分19―19、両GKのファインセーブで得点が動かない。会場が絶叫する中、残り30秒、三重・加藤がミドルシュートを決め、三重が大接戦を制した。

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
[三重]				[広島]	
0	四方	1	1	宇田川	0
3	池辺	2	2	貝田	0
2	羽賀	3	3	小沢	1
0	日原	4	4	田場	6
2	荒木	5	5	浜本	3
0	長谷川	6	6	河原	6
3	斉藤	7	7	木村	0
4	加藤	8	8	鮎沢	0
5	笹浪	9	9	源内	2
1	中里	10	10	田中	1
		11	11	高田	0
		12	12	多田	0
20	計	(後藤、	清水)	計	19

【成年女子の部】

北国銀行が3年ぶり2度目の優勝

成年女子の部は、北国銀行、オムロンなど日本リーグ勢を中心に展開されることが予想された。また、大和銀行にとっては3連覇がかかっていた。展開は予想通り、日本リーグ勢を中心に展開された。地元神奈川はこの一角を崩すべく奮戦し、広島選抜に残り5分までリードを奪っていたが、要所の7MTの失敗が響き1点差で2回戦の壁を破ることができなかった。

【準決勝】

熊本 21（10―9、11―8）17 富山

【戦評】前半テンポの良い8番高橋のパスワークから6番宮本、4番指野ミドル、GK山口の好守でリードを広げた熊本に対して、富山は10番児島の切れのあるステップシュート、8番鏡森のミドルシュートなどで1点差まで追い上げたところで終了する。後半に入ってもセンターから切れのあるシュートを決める富山の6番児島をマンツーマンで守った熊本が、徐々にリードを広げ4点差で逃げ切った。

【準決勝】

石川 28（15―10、13―11）21 栃木

【戦評】前半、栃木は石川の高い守りに苦戦し、ミスから失点することがしばしば見られた。石川は2番上出、長身ポスト3番田中(由)のパワープレーで栃木の守りを崩し、また11番田中(美)のロングシュートや8番中村のカットインが要所で決まり、徐々にリードを広げた。後半栃木はポストやサイドを使い粘り強い攻撃を続けるが、石川も11番田中(美)や10番和田の活躍で栃木の追撃を許さず、点差は縮まることなく終了した。

【3位決定戦】

栃木 33（14―13、14―15、2―3、3―1）32 富山

【戦評】惜しくも決勝進出を逃した両チームであるが選手の表情は非常に晴れやかであった。前半早々栃木が素早い動きから4点を先行したが、富山も粘り強い攻撃で10分過ぎには振り出しに戻した。富山は10番児島、4番中塚を擁するロングシューターのチーム。一方、栃木は7番沖土居を中心としたカットイン主体のチームと、タイプの違う両者の戦いはほぼ互角であった。後半5分過ぎ、栃木は退場者を出してから一時富山に5点のリードを許したが19分には再び同点、その後は1点を争う激戦で、やや栃木優勢であったが29分富山が7MTを決めて延長戦に突入した。この戦いを制したのは栃木であった。後半4分、3番伊佐野の執念のサイドシュートが決まり終了した。1秒たりとも目の離せぬ素晴らしい試合であった。

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
[栃木]				[富山]	
0	藤井	1	1	本間	0
0	寺中	2	2	三浦	0
4	伊佐野	3	3	松本	0
0	渡辺	4	4	中塚	8
4	高橋	5	5	前山	6
0	松本裕	6	6	小清水	0
7	沖土居	7	7	山崎有	6
0	中山	8	8	鏡森	1
1	面	9	9	山崎理	7
12	松本恵	10	10	児島	3
5	中村	11	11	新屋	3
0	今野	12	12	佐藤	0
33	計	(佐藤、	大沢)	計	32

【決勝】

石川 25（15―10、10―9）19 熊本

【戦評】石川の上出、熊本の宮本のカットインで始まったゲームは、前半20分近くまでは同点で互角の戦い。ここで石川の中村が鋭い出足で2本連続のパスカット、一気に3点差となる。ここで熊本は宮本の頑張りで粘るが、石川はサウスポー田中がロングを決めて常にリードを保つ。熊本は田中をマンツーマンで守るが、広くなったディフェンスを上出に割られ、5点差となって前半終了。後半から熊本は積極的にロングを狙うが、長

身田中の壁を破れない。石川はポストの田中にボールを集め、相手の反則を誘う。熊本に退場者が続出し、石川が着実に得点を重ねるうちに時間が経過し、終始石川ペースのまま、試合は25—19で終了した。

[石　川]			[熊　本]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
1	沖園	1	1	山口	0
8	上出	2	2	杉原	2
1	田中由	3	3	田口	2
0	近藤	4	4	指野	4
2	小松	5	5	川崎	0
0	斉藤	6	6	宮本	4
0	桶	7	7	坂元	0
4	中村	8	8	高橋	4
2	岡田	9	9	後藤	1
2	和田	10	10	隅	1
5	田中美	11	11	林	1
0	安田	12	12	吉田	0
25	計	(堀越、	山田)	計	19

【少年男子の部】

横浜商工 2度目の3冠を達成

少年男子の部は、全神奈川・横浜商工の3冠達成が最も注目された。大会展開は、有力な対抗と見られた大阪高校選抜、山口選抜などが次々と敗退する中、決勝戦はインターハイと同じ顔ぶれの大分国際情報高校と全神奈川の戦いとなった。

【準決勝】

神奈川 28（14—6、14—10）16 山梨

【戦評】開始後、神奈川5番神田のロングであっさり点を取り、ペースをつかむ。その後も、フットワークを使ったディフェンスからの速攻や組織的な3番長村、2番林、9番飯塚らの攻撃で着実に加点。ディフェンスでは10番板垣がよく守った。山梨は8番村田のロングなどがきまるが、点差は徐々に広がり、前半を8点差で折り返す。

後半も一方的な試合となり、巧みな攻撃、シュートで得点を重ねた。山梨も速攻で追いかけるが力の差が出た。

【準決勝】

大分 22（10—5、12—10）15 香川

【戦評】前半は両チームの持ち味を生かし香川は速攻主体の攻撃、大分はセットプレーからのロングシュートで前半10分までは4—4の同点で1点を争う展開になる。大分は15分過ぎから3番秋吉のサイドシュートを足掛かりに5番村山のカットインシュートなどで5連取する。香川は10分過ぎからミスが続き得点できず前半終了間際に10番白井のポストシュートで1点を返すものの10—5で、前半を終了した。後半香川は最後まで速攻に全てをかけたが12番小野の好セーブもありバランスよく着実に得点を重ねた大分が22—15で勝利を収めた。

【3位決定戦】

山梨 22（9—8、13—13）21 香川

【戦評】山梨は、1—2—3ディフェンスで早めのチェックやパスカットを中心に守り、速攻につなげる。セットでは、7番水野のロングや4番宿澤のポストシュートにより加点。一方、香川は高さを生かした0—6ディフェンスで守る。GK村尾は安定感がある。シュートミスなどもあったが、15分過ぎ速攻で加点し、1点差の山梨リードで折り返す。後半も一進一退が続く。山梨は水野のロングが思うように決まる。香川も速攻で追いかけるが、逆転できず最後も水野のロングで決まった。

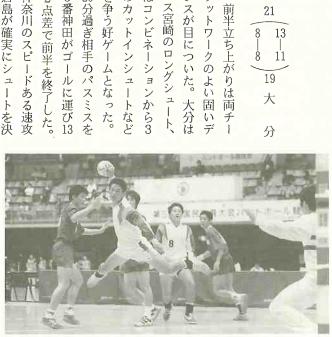
[山　梨]			[香川]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	天川	1	1	村尾	0
1	重森	2	2	中村	0
0	平塚	3	3	太田	2
5	宿澤	4	4	大西	0
4	鈴木	5	5	古田	0
0	広瀬	6	6	十河	3
11	水野	7	7	丸尾	6
0	村田	8	8	井上	4
1	山本	9	9	佐藤	3
0	藤本	10	10	白井	2
0	池田	11	11	高橋	1
0	土橋	12	12	中西	0
22	計	(滝口、	吉岡)	計	21

【決勝】

神奈川 21（13—11、8—8）19 大分

【戦評】前半立ち上がりは両チームともフットワークのよい固いディフェンスが目についた。大分は9番エース宮崎のロングシュート、神奈川はコンビネーションから3番長村のカットインシュートなどで1点を争う好ゲームとなった。

前半20分過ぎ相手のパスミスを神奈川5番神田がゴールに運び13—11の2点差で前半を終了した。後半は神奈川のスピードある速攻で4番倉島が確実にシュートを決め後半10分までに5点差としゲームの流れを神奈川に引き寄せた。大分も終盤退場者を出し、大分も最後まで11番大田のサイドシュートなどで粘りを見せるが地元の応援を力にして神奈川が勝利を収めた。

[神奈川]			[大　分]		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	佐藤	1	1	首藤	0
7	林	2	2	末松	0
9	長村	3	3	秋吉	5
3	倉島	4	4	新田	0
2	神田	5	5	村山	3
0	菅野	6	6	波田	0
0	熊田	7	7	林	1
0	山元	8	8	永野	0
0	飯塚	9	9	宮崎	8
0	板垣	10	10	松本	0
0	中野	11	11	大田	2
0	田代	12	12	小野	0
21	計	(小林、	土屋)	計	19

【少年女子の部】

京都洛北の3冠成らず

少年女子の部は、京都選抜・洛北高校の3冠達成が注目されたが、2回戦で岩手選抜（盛岡第二）の好プレーの前に敗れ去った。大会の展開は、京都選抜（洛北）、愛知選抜、兵庫選抜を中心に展開すると思われたが、愛知選抜、京都選抜は早々と姿を消した。ベスト4は、今大会好プレーの光る岩手選抜、地元の利を活かし勢いに乗る全神奈川、U—19のナショナルチーム井上監督の率いる兵庫選抜、混戦を抜け出した宮城選抜となった。全神奈川は、準決勝で岩手選抜と延長の大激戦の上勝利をものにし、そのまま勢いで初優勝を飾った。

【準決勝】

神奈川 24（7—7、13—13、2—0、2—2）22 岩手

［戦評］京都（洛北）を破り勢いに乗る岩手と地元神奈川の対戦、岩手8番志田のミドルシュートでゲームが始まる。神奈川も2番花房の速攻、サイドと連取、その後7番上町のシュート、神奈川も渡辺・一木のカットインと一進一退が続く。残り8分、神奈川はフォーメーションでポスト才治がゴール、GK西井の活躍で7—7の同点で前半終了。後半、岩手が2点を連取、神奈川もサイドから垣ケ原がゴール、7分に11—11の同点となる。岩手7番上町がステップ、ミドルを決めると神奈川も渡辺が手わたしからゴールと13分岩手8番志田のロングで16—13、岩手3点リードとなり、神奈川はタイムアウト。しかし16分岩手エース上町が2度目の退場。ここで神奈川は一木がカットイン、花房が速攻、青沼がセンターからゴールでついに同点。ノータイムで延長へ。神奈川のゴールで始まった延長は、神奈川のペースで24—22で勝利となる。

【準決勝】

兵庫 19（9—4、10—5）9 宮城

［戦評］試合開始2分までに陣崎のカットインシュート、太田の2連続得点で兵庫が幸先良いスタート。兵庫に攻撃のミスが出始めるが、宮城も兵庫の守りを崩せず、9分過ぎに三浦のパスカットからの速攻でやっと得点。その後一進一退で進むが、残り5分を兵庫が三浦の2連続得点やGK宮永の好セーブで5点差をつけて前半を終了。後半兵庫三浦の速攻でスタートするも、宮城も橋沼のステップシュートで応戦。ただ、兵庫の厚いディフェンスとGK宮永の好セーブで、宮城はペースを作れない。その間、兵庫はサウスポー中村のミドルシュート、陣崎のカットインシュートで確実に加点。宮城は17分過ぎから3連続得点を決めねばりを見せるが、終始兵庫のペースで進んだ試合であった。

【3位決定戦】

岩手 26（9—11、17—10）21 宮城

［戦評］立ち上がり、固さの見られる中、宮城K鎌田のパスカットからの速攻、岩手上町のフリースローからのロングシュートでスタートするも、お互いミスが多い。その中、先に抜け出したのは岩手。5分過ぎに小笠原のサイドシュートを皮切りに、GK阿部の好セーブもあり、5点連取し一気に逆転、波に乗る。しかし宮城も10分過ぎに庄内が7MTを確実に決めてからディフェンス・オフェンスともに動きが良くなり、17分過ぎに同点に。そのまま調子をつかんだ宮城が11—9とし前半を終わる。後半宮城が先に取るも、岩手も3連取で5分までに同点に。ただ宮城もあわてず、宮城リードの展開が続く。12分過ぎに宮城に退場者が出てから流れがかわる。岩手が15分に追いつき、小笠原のサイドシュート3連発で逆にリードする展開。宮城も粘るが、一気にムードに乗った岩手の勢いを止められなかった。

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
［岩手］			［宮城］		
0	阿部	1	1	高橋	0
4	村山	2	2	鎌田	2
1	浅沼	3	3	橋沼	5
0	成島	4	4	小林	0
5	小笠原	5	5	門間	0
0	渡辺	6	6	庄内	6
3	上町	7	7	早川	0
7	志田	8	8	志村	0
2	太田	9	9	設楽	0
1	山田	10	10	佐藤	1
3	中村	11	11	三浦	7
0	藤村	12	12	菊地	0
26	計	（本田、安井）		計	21

【決勝】

神奈川 13（8—5、5—7）12 兵庫

［戦評］神奈川3番渡辺の速攻でゲーム開始、兵庫3番中村のステップで同点。ここで神奈川はエースの一木のロングでリード。さらに2番花房のワンマンで3対1とする。兵庫も5番太田が1対1で、3番中村がカットインで5—4、1点差と詰め寄るが、神奈川も6番青沼がセンターからミドルを決め前半19分7—4、3点リードでタイムアウト。神奈川は1—5ディフェンス、0—6ディフェンスの使い分けが良く、兵庫が苦しい攻撃。ここで神奈川3番渡辺が貴重なカットインを決め8—5とリードで前半終了。後半垣ケ原が7MTを決め4点差、また、兵庫の攻撃をGK西井が救う。しかしここから兵庫が走って追い上げるが神奈川もフォーメーションが見事に決まる。13—9、残り8分で神奈川に退場者が出るが兵庫はミスが続く。兵庫も走って残り2分で1点差、しかし神奈川が逃げ切り、地元優勝となる。

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
［神奈川］			［兵庫］		
0	西井	1	1	宮永	0
2	花房	2	2	前畑	0
3	渡辺	3	3	中村	4
3	一木	4	4	三浦	0
0	鈴木	5	5	太田	5
3	青沼	6	6	畑	0
0	秋山	7	7	森井	0
1	垣ケ原	8	8	阿江	1
0	中川	9	9	山城	1
0	北村	10	10	陣崎	1
1	才治	11	11	濱畑	0
0	有泉	12	12	西林	0
13	計	（中山、河先）		計	12

第53回国民体育大会かながわ・ゆめ国体最終成績

成　年　男　子

成　年　女　子

25日(日) 1回戦	26日(月) 2回戦	27日(火) 準々決勝	28日(水) 準決勝	29日(木) 決勝	28日(水) 準決勝	27日(火) 準々決勝	26日(月) 2回戦	25日(日) 1回戦

- 広島（広島選抜）①
- 神奈川（全神奈川）②
- 岩手（岩手選抜）③
- 愛知（ブラザー工業）④
- 福岡（F・C・C）⑤
- 栃木（日立栃木）⑥
- 大阪（大和銀行）⑦
- 宮城（宮城選抜）⑧
- 北海道（六陵クラブ）⑨
- 宮崎（全宮崎）⑩
- 千葉（千葉選抜）⑪
- 石川（北國銀行）⑫

- ⑬熊本（オムロン）
- ⑭京都（京都クラブ）
- ⑮福島（福島ムネカタ）
- ⑯山口（徳山クラブ）
- ⑰福井（福井選抜）
- ⑱埼玉（OSAKI OSOL）
- ⑲富山（立山アルミ）
- ⑳滋賀（滋賀選抜）
- ㉑香川（香川銀行クラブ）
- ㉒大分（大分選抜）
- ㉓山梨（㈱シャトレーゼ）
- ㉔三重（ジャスコ）

1回戦（左）: 18{10-7, 8-9}16　22{9-7, 13-7}14　40{17-5, 23-6}11　21{10-7, 11-13}20

2回戦（左）: 18{7-10, 11-7}17　23{9-9, 14-13}22　28{14-7, 14-11}18　33{17-2, 16-5}7

準々決勝（左）: 23{10-8, 13-11}19　24{12-9, 12-9}18

準決勝（左）: 28{15-10, 13-11}21

決勝: 25{15-10, 10-9}19

準決勝（右）: 21{10-9, 11-8}17

準々決勝（右）: 22{8-8, 14-12}20　25{16-8, 9-16}24

2回戦（右）: 38{17-8, 21-5}13　26{12-6, 14-7}13　38{21-8, 17-11}19　28{15-11, 13-11}22

1回戦（右）: 32{15-7, 17-8}15　27{13-9, 14-12}21　28{14-7, 14-10}17　32{17-6, 15-13}19

3位決定戦: 栃木 33{14-13, 14-15, 延長 2-3, 3-1}32 富山

第53回国民体育大会かながわ・ゆめ国体最終成績

少年男子

25日(日) 1回戦 / 26日(月) 2回戦 / 27日(火) 準々決勝 / 28日(水) 準決勝 / 29日(木) 決勝 / 28日(水) 準決勝 / 27日(火) 準々決勝 / 26日(月) 2回戦 / 25日(日) 1回戦

① 神奈川（全神奈川）
② 岡山（岡山選抜）
③ 北海道（函館選抜）
④ 福島（福島選抜）
⑤ 岐阜（岐阜選抜）
⑥ 奈良（奈良県高校選抜）
⑦ 山梨（山梨選抜）
⑧ 長崎（長崎選抜）
⑨ 三重（三重選抜）
⑩ 茨城（茨城選抜）
⑪ 石川（石川選抜）
⑫ 大阪（大阪高校選抜）
⑬ 山口（山口選抜）
⑭ 熊本（熊本選抜）
⑮ 埼玉（埼玉選抜）
⑯ 東京（東京選抜）
⑰ 香川（香川選抜）
⑱ 秋田（秋田選抜）
⑲ 兵庫（兵庫選抜）
⑳ 愛知（愛知選抜）
㉑ 岩手（岩手選抜）
㉒ 千葉（千葉選抜）
㉓ 富山（全富山）
㉔ 大分（大分国際情報高等学校）

1回戦
- ②–③ 22 {9-11, 9-7, 延長 4-3} 21
- ④–⑤ 25 {13-9, 12-9} 18
- ⑧–⑨ 31 {14-11, 17-9} 20
- ⑩–⑪ 16 {9-5, 7-9} 14
- ⑭–⑮ 18 {11-5, 7-11} 16
- ⑯–⑰ 20 {8-9, 12-9} 18
- ⑳–㉑ 24 {11-6, 13-9} 15
- ㉒–㉓ 24 {11-8, 13-13} 21

2回戦
- 27 {13-5, 14-6} 11
- 24 {8-8, 16-10} 18
- 24 {11-8, 13-11} 19
- 27 {13-9, 14-5} 14
- 18 {11-7, 7-5} 12
- 33 {17-11, 16-9} 20
- 29 {15-8, 14-14} 22
- 27 {14-11, 13-10} 21

準々決勝
- 22 {14-12, 8-6} 18
- 18 {8-8, 10-9} 17
- 16 {7-9, 9-6} 15
- 26 {13-7, 13-15} 22

準決勝
- 28 {14-6, 14-10} 16
- 22 {10-5, 12-10} 15

決勝
- 21 {13-11, 8-8} 19

3位決定戦
- 山梨 22 {9-8, 13-13} 21 香川

少年女子

平成10年度 全日本学生選手権大会

《男子の部》

1回戦（左ブロック）

- 中央大学（東） 44（23－7, 21－9）16 近畿大学（西）
- 東北学院大学（東） 25（13－12, 12－11）23 福岡教育大学（西）
- 道都大学（東） 22（6－10, 16－15）25 立命館大学（西）
- 国士館大学（東） 25（11－10, 14－7）17 京都産業大学（西）
- 早稲田大学（東） 37（20－9, 17－13）22 東和大学（西）
- 順天堂大学（東） 22（9－11, 13－16）27 愛知教育大学（西）
- 拓殖大学（東） 20（9－10, 9－8, 1－0, 1－1）19 広島大学（西）
- 仙台大学（東） 13（8－13, 5－18）31 名城大学（西）

2回戦（左ブロック）

- 中央大学 31（16－5, 15－12）17 東北学院大学
- 立命館大学 15（4－14, 11－16）30 国士館大学
- 早稲田大学 36（15－12, 21－5）17 愛知教育大学
- 拓殖大学 18（8－11, 10－12）23 名城大学

準々決勝（左ブロック）

- 中央大学 24（13－8, 11－12）20 国士館大学
- 早稲田大学 24（11－14, 10－7, 1－2, 2－2）25 名城大学

準決勝（左ブロック）

- 中央大学 19（11－10, 8－10）20 名城大学

1回戦（右ブロック）

- 筑波大学（東） 39（19－8, 20－11）19 大阪経済大学（西）
- 法政大学（東） 31（13－8, 18－4）12 沖縄国際大学（西）
- 東北福祉大学（東） 14（9－12, 5－15）27 桃山学院大学（西）
- 函館大学（東） 27（13－17, 14－9）26 中京大学（西）
- 日本体育大学（東） 34（15－7, 19－5）12 広島経済大学（西）
- 金沢工業大学（東） 27（11－14, 16－12）26 中部大学（西）
- 日本大学（東） 31（18－8, 13－12）20 福岡大学（西）
- 東海大学（東） 14（6－14, 8－13）27 大阪体育大学（西）

2回戦（右ブロック）

- 筑波大学 32（17－11, 15－11）22 法政大学
- 桃山学院大学 31（16－8, 15－8）16 函館大学
- 日本体育大学 31（17－6, 14－10）16 金沢工業大学
- 日本大学 26（10－11, 10－9, 1－2, 3－2, 2－1, 0－2）27 大阪体育大学

準々決勝（右ブロック）

- 筑波大学 28（11－9, 17－6）15 桃山学院大学
- 日本体育大学 14（9－9, 5－6）15 大阪体育大学

準決勝（右ブロック）

- 筑波大学 26（12－15, 14－14）29 大阪体育大学

決勝

- 名城大学 12（6－6, 6－8）14 大阪体育大学

優勝 大阪体育大学

決勝は西日本対決
大阪体育大学が、2年ぶり7回目の優勝

第41回高松宮杯全日本学生ハンドボール選手権大会は、11月18日㈬より、22日まで、名古屋市中村スポーツセンターを主会場に、枇杷島スポーツセンター、露橋スポーツセンター、天白スポーツセンターで行われた。

注目の決勝戦は、関東勢を破り勝ち進んだ大阪体育大と、優勝候補の一角と見られた、早大、中大を、激戦の末1点差で退けた名城大の、西日本決戦となった。

決勝戦は、がっぷり四つに組んだ好ゲームとなった。前半は、1点差以上に点差が開かぬ6度のタイスコアーで、6―6で終えた。後半に入って5分すぎ、大体大が抜け出すが、すぐさま名城大も追いつく。残り10分あたりから大体大が3連取で主導権をにぎった。名城大も、加藤でふんばるが、時すでに遅く、大体大の2年ぶり7回目の優勝となった。

大会の展開は、東西インカレ1・2位のシード組に、早大、日体大などの実力校を中心に展開すると予想されたが、大体大は、2回戦で、秋のリーグ好調であった日本大学に、第二延長にまでもつれ込む大激戦を制して勝ち上がった。

また、3回戦では、日体大と両チーム合わせて、退場が12回、失格が1回と荒れたゲームのなか、やはり1点差で、勝ち進んだ。

一方、名城大は、準々決勝で早大と当たったが、早大の後半のねばりで延長にもつれ込んだ。延長後半、一度はリードを許すが、残り1分を切って、再逆点。そのまま逃げ切り、準決勝へと駒を進めた。

準決勝は、中大対名城大、大体大対筑波大の対戦となった。中大対名城大戦は、後半残り1分で同点となるシーソーゲームとなった。残り30秒名城大、奥村が決めて決勝へと駒を進めた。大体大対筑波大戦は、筑波大のミスを確実に得点に結び付けた大体大が危気なく勝ち上がった。

名城大は、平成7年に続く、関東、関西以外からの優勝を目指したが、大体大の前におしくも涙をのんだ。

平成10年度 全日本学生選手権大会

《女子の部》

優勝：筑波大学

（左ブロック）

筑波大学（東） 25〔13－9 12－6〕15 武庫川女子大学（西）

武庫川女子大学（西） 31〔15－7 16－3〕10 秋田大学（東）

大阪教育大学（西） 35〔16－5 19－5〕10 新潟大学（東）

大阪教育大学 17〔5－13 12－7〕20 福岡教育大学（西）

筑波大学 24〔12－9 12－8〕17 福岡教育大学

国士舘大学（東） 20〔11－7 7－11 0－2 2－1〕21 龍谷大学（西）

龍谷大学（西） 31〔14－15 17－8〕23 東京学芸大学（東）

龍谷大学 16〔6－13 10－8〕21 中京大学

中京大学（西） 19〔11－5 8－7〕12 日本体育大学（東）

中京大学 16〔5－8 11－7〕15 福岡大学（西）

筑波大学 22〔11－8 11－7〕15 中京大学

（右ブロック）

東京女子体育大学（東） 23〔12－6 11－7〕13 東海大学

天理大学（西） 15〔9－12 6－11〕23 東海大学（東）

東京女子体育大学 26〔14－12 12－8〕20 中京女子大学

九州女子大学（西） 21〔8－4 13－8〕12 北海道教育大学旭川校（東）

九州女子大学 20〔10－12 10－13〕25 中京女子大学（西）

東京女子体育大学 28〔13－12 15－10〕22 大阪体育大学

日本女子体育大学（東） 17〔13－12 4－11〕23 茨城大学

岡山県立大学（西） 8〔3－21 5－18〕39 茨城大学（東）

茨城大学 21〔13－11 8－13〕24 大阪体育大学

立命館大学（西） 21〔9－12 12－17〕29 東北福祉大学（東）

東北福祉大学 17〔6－14 11－14〕28 大阪体育大学（西）

（決勝）

筑波大学 22〔13－10 9－9〕19 東京女子体育大学

筑波大が16年ぶり3回目の優勝

第34回高松宮杯女子全日本学生ハンドボール選手権大会は、男子選手権と同会場、同期日で行われた。

優勝杯は、西日本1位の大体大を破って進出してきた、昨年の覇者東女体大を下した筑波大が獲得した。筑波大は、16年ぶり3回目の優勝であった。

大会初日は、1回戦8試合が行われた。過去16回の最多優勝回数を誇る日体大が、地元中京大に12－19で敗れ、この1回戦で姿を消した。

2回戦に入ると、好ゲームが続出した。国士舘大対龍谷大の一戦は、終盤龍谷大が盛り返し、延長に突入する熱戦となった。延長後半、残り43秒で龍谷大、谷崎が勝ち越し点をあげ、3回戦へ勝ち上がった。続く、中京大対福岡大戦は、中京大が後半逆転をし、1点差で福岡大を下して勝ち上がった。

3回戦は、大阪体育大と茨城大の一戦が好ゲームとなった。大体大は、西日本、秋のリーグと好調を維持し、今大会でも優勝候補に挙げられた強豪でもある。一方の茨城大は、東日本の成績はいま一つながらも、秋の関東リーグで初の2位に躍進するなど、好調なチーム。この好調さを示すように、前半13－11で、茨城大がリードで折り返したが、地力にまさる大体大が、後半開始早々から猛攻を見せ、逆転で茨城大を振り切った。

準決勝は、筑波大対中京大、大体大対東女体大の対戦となった。筑波大は貫禄で、中京大を一蹴した。大体大対東女体大は、序盤大体大が着実に得点を重ね、11分には7－3とリードを奪った。しかし、6連覇をねらう東女体大も、エース板谷がふんばり26分には逆転に成功する。後半に入って、東女体大の多彩な攻めと固いディフェンスで、大体大につけ入るスキを与えず決勝へと進んだ。

決勝戦では、筑波大がセンター山田の13得点という活躍で、東女体大を破った。

なお、男女優勝チームには荒川清美杯が授与された。

第50回全日本総合選手権大会展望

男子　本命は本田技研！ 実力伯仲を制するのはどこか

女子　イズミの連覇か オムロンの逆襲成るか

昭和25年1月愛知県一宮市を会場に始まった全日本総合選手権大会も今回で第50回を迎える。記念すべき今大会は兵庫県協会創立50周年記念大会として12月23日～26日まで、神戸市の神戸グリーンアリーナを会場にして行われる。昨年は女子世界選手権大会のため男女分散開催となったが、今大会は男女そろっての大会となり、記念大会にふさわしい華やかで、熱気あふれる大会となることを期待する。今大会より、全日本総合推薦方式の変更されたこともあり、1回戦から好ゲームとなるであろう。また、長い全日本総合選手権大会の歴史において初の女性レフェリーの登場も楽しみである。

11月6日現在では、組み合わせが決まっておらず、また全日本学生選手権大会前であり全日本学連代表が決まっていないが、日本リーグを中心に優勝の行方を追ってみる。

【男子】

男子の部の出場チームは、日本リーグ8チーム、全日本学連2チーム、ジャパンオープン2チーム、日本協会推薦4チームの合計16チームが参加する。このうちすでにわかっている出場チームは、日本リーグより湧永製薬、本田技研、大同特殊鋼、中村荷役、三陽商会、日新製鋼、ＯＳＡＫＩＯＳＯＬ、トヨタ車体、ジャパンオープンから香川クラブ、福島クラブ、日本協会推薦から北陸電力、本田技研熊本、デンソー、アラコ九州で、全日本学連代表2チームは11月22日に決定する。

日本リーグは3節が終わった時点ですでに全勝が無く混戦模様である。その中でも、やはりストックラン、ヴォルのフランス代表が新加入した本田技研に注目したい。本田技研はリーグ初戦をまさかの敗戦でスタートしたが、その後は立ち直りを見せ着実に勝ちを収め安定感を見せ、全日本総合においても中心的存在になると思われる。それを追う湧永製薬、大同特殊鋼がどれだけ本田技研を苦しめるかにも注目したい。また、リーグにおいてなかなか本調子のでない中村荷役も昨年チャンピオンの意地で戦いに臨むものと思われる。また、リーグ初戦で本田技研を破り意気のあがる三陽商会の戦いも見逃せない。

ジャパンオープン勢では、香川クラブは第43回（当時は香川教員）からの連続8年出場で、47、48回大会では日本リーグ1部を破る実績があり今大会での活躍が期待される。

学生では、関東の筑波大学と、関西の大阪体大がリードしている様ではあるが、中大、早稲田、日体大なども力があり混戦模様で、どこが勝ち上がり代表となってもおかしくない。ここ数年全日本総合選手権大会においては学生に元気

が見られず残念である。大学選手権チャンピオンになったことに満足せず、学生代表として日本リーグ勢にどこまで肉薄できるかチャレンジする事を期待したい。

日本協会推薦の4チームは全て日本リーグ2部のチームであり1部昇格へ向けての試金石として、一発勝負に出、台風の目となることを期待したい。

【女子】

女子の部の出場チームは、日本リーグ8チーム、全日本学連2チーム、ジャパンオープン2チーム、日本協会推薦2チームの合計14チームが参加する。このうちすでにわかっている出場チームは、日本リーグよりオムロン、北国銀行、日立栃木、イズミ、OSAKI OSOL、大和銀行、立山アルミ、シャトレーゼ、ジャパンオープンから徳山クラブ、熊本クラブ、日本協会推薦からジャスコ、ブラザーで、全日本学連代表2チームは11月22日に決定する。

日本リーグは3節が終わった時点で男子同様全勝チームが無くなり、イズミ、オムロン、立山アルミが3勝1敗で並ぶ混戦模様である。イズミは前回優勝に続き連覇をかけ、オムロンは昨年本命視されながら準々決勝で敗れ去った汚名を晴らすため激しい戦いが予想される。立山アルミは2回目出場の昨年ベスト4に入るなど成長株であり、リーグで今ひとつ波に乗れないOSAKI　OSOL、昨年準優勝と古豪復活の期待がかかる。

ジャパンオープン勢では、徳山クラブは日本リーグや学生のOGを中心とした実力のあるチームで、クラブチームとして日本リーグにどこまで迫り、さらには勝利を収められるかに注目したい。

学生では、インカレでは関東の筑波大学と、関西の大阪体大の一騎打ちが予想される。しかしながらどこに伏兵が隠れているかわからないのが学生大会の興味でもある。関東秋季リーグで不覚をとった東京女子体育大学も昨年の学生チャンピオンの意地で全日本総合への出場権に意欲を燃やしているものと思われる。学生は48回大会で東京女子体大がベスト4に入った実績もあり、代表チームは大学選手権チャンピオンになったことに満足せず、学生代表として日本リーグを打ち破るため、引退気分にらなず全力を尽くしてもらいたい。

日本協会推薦の2チームのジャスコ、ブラザーも現在は日本リーグ2部に甘んじているが、名門の意地で臨んでもらいたい。

選手・ファン交流会が今年も開催

（全日本総合選手権大会第3・4日に）

第50回全日本総合ハンドボール選手権大会は12月23日（水）から兵庫県・神戸市のグリーンアリーナ神戸で開催されるが、日本ハンドボール協会は大会第3日目の25日（金）に「ハンドボールフェスタ'98」（98年選手とファンの交流会）を行う。

この企画は昨年（男子・東京大会）同様、準決勝の試合が終了後、両チームの選手がそのままフロアーの一隅でファンと交流しようとするもの。

交流会では昨年大好評だった選手と一緒にビデオカメラで撮影し、その場でシールにするサービスが今年も行われる。また、全日本のユニフォームも展示され、ファンはこれを着込んで一流選手とツーショットの写真も撮れる。もちろん、選手の手形入りサイン色紙や各選手のトレーニング法や技術的な問題、将来の抱負なども聞くことができるというファンにとっては大変うれしい企画だ。

この交流会は一昨年、昨年に続き3回目となるが、（財）日本ハンドボール協会が主催、全日本総合選手権大会実行委員会が主管、（財）大崎企業スポーツ事業研究助成財団が企画・後援する。

写真は昨年の交流会の模様です

故荒川清美名誉顧問を偲ぶ会を開催

先頃お亡くなりになりました、故荒川清美日本ハンドボール協会名誉顧問を偲ぶ会が、11月8日(日)に京王プラザホテルで、北は北海道、南は九州からと全国各地から多数の出席者を集め、盛大に行われました。

偲ぶ会は、黙祷、献花の後、日本協会大野金一監事より献杯がなされました。この後、元NHKスポーツセンター長の杉山茂氏より荒川名誉顧問の数々の業績や、エピソードが披露されました。続いて、元日本協会監事松本重雄氏、日本体育大学北川勇喜氏、湧永製薬草井由博氏、元海軍旧友河野一英氏、前大阪協会会長神田清氏などから、故人の人となりが紹介されました。

会の終わりに当たり、荒川家からのご厚志の拝受とその取り扱いについて、日本協会山下理事より報告がなされ、続いて、故荒川名誉顧問が特に縁の深かった学生界への荒川清美杯の作成の報告と、全日本学生連盟への授与が行われました。

最後に日本協会渡邊副会長の挨拶があり、閉会となりました。

【故荒川清美氏　燦燦たる足跡】

1920・8・24～1998・9・18(行年78才)

日本体育大学教授・名誉教授

「正五位」(1998・9)、「勲三等瑞宝章」(1991・11)、「国際オリンピック委員会オーダー」(1995・6)受賞

◇日本ハンドボール協会

1950　常務理事
1963　全日本学生連盟理事長
1967　理事長
(1981・財団法人化　専務理事)=通算8期16年
1983　副会長
1992　顧問
1998～名誉顧問

◇日本体育協会

1967　国体委員
1973　理事
1975～参与
1975～評議員

◇日本スポーツ少年団(本部)
—日本体育協会事業—

1973　常任委員
1979　副本部長=通算6期12年
日獨・日中交流団長など多数

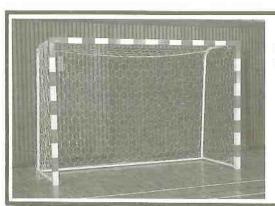
◇日本オリンピック委員会
(旧制度時代含む)

1960　東京オリンピック選手強化対策本部委員
1973　委員
1975　常任委員
1991～名誉顧問

◇アジアハンドボール連盟

1980　理事=通算4期16年

◇文部省

1960　学習指導要項作成協力者会議委員
1973　青少年運動競技中央連絡協議会委員

ANA CARD

ANAカードなら、旅の応援機能満載。マイレージの楽しさも大きく広がります。

空港でも余裕の
チェックイン

出張先でのショッピングも
バックアップ

旅の安心。
保険もサポート

ホテルのご利用も
おトク倍増

航空券ご予約が、
スムーズアップ

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード！

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円＝1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売　●高島屋　●日本石油SS　●出光SS

ANA

髙島屋

出光

さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ！

飛ぶたびに基本マイレージの15％（ワイドカードの場合。一般カードは5％）のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル（ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル）のボーナスマイルでおトクに貯まります。

今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

今日からマイルが
貯められる
インスタントカード付き

お問い合わせ、入会申込書のご請求は、フリーダイヤル 0120-029-707まで
[受付時間] 9:30～17:00（土・日・祝・年末年始を除く）
全日空各支店、空港カウンターにもございます。

マスメディアを活用しよう

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

月日の流れをとても早く感じる。年齢のせいだろうか(とは思いたくないが…)。早くも師走を迎えた。日本リーグが始まったと思ったら、世界選手権東アジア予選、アジア大会とビッグイベントのスケジュールが目白押し。大忙しの年の暮れといえるだろう。アジア大会で有終の美を飾って、新しい年を迎えたいものである。

ハンドボール関係者にとってビッグイベントが続いても、新聞、テレビはあまり関心がないようである。日本リーグにしても記録が隅っこに載っているだけ。一般の読者やテレビの視聴者には、どこが首位なのかもまるっきり分からないのが現状である。以前にもこの欄で取り上げたことがあるが、もっとマスメディアに注目させる“何か”が必要ではないだろうか。

そのためにもアジア大会での優勝、来年のシドニー五輪予選は絶対にもぎとらなければならない大会である。オリンピックに出場するか、しないかでマスメディアの注目度はかなり変わってくるからだ。

日ごろの対応についても、もっとマスメディアを会場に足を運ばせることに頭を絞らなくてはなるまい。一例を日本リーグにとってみよう。

開幕前に参加各チームの監督会見が行われる。この席で各監督の抱負、心意気などを全国に発信できないものだろうか。というのはリーグの本拠地は全国に散らばっている。東京、大阪だけではない。所属する各地のマスメディアへ資料を流してはどうだろうか。むしろハンドボールに関しては、そうしたメディアの方が大きく取り上げるケースが多いからだ。

また、全日本総合選手権などのように、試合後に監督会見の場が設定できないものだろうか。加えて両チームの指名選手をひとりずつ同席させてもいい。マスメディアに顔を売ることが必要だろう。長い時間はいらない。せいぜい双方で15分もあれば十分である。戦いの印象、勝敗のポイントなどを話せば事足りると思う。あるいは、記録にしてもデータ・センターのような所に集め、一括送信のサービスを行ってはどうだろうか。

黙っていては現状維持が精一杯だろう。多少は手をさしのべて、ハンドボールがマスメディアに登場する機会を増やしたいものである。とくに地方のメディア活用をもっともっと生かす手だてを考えたいものである。

第23回日本ハンドボールリーグ
～序盤戦を振り返って～

(財)日本ハンドボール協会常務理事
日本ハンドボールリーグ運営委員長
山下　泉

10月1日に開幕した日本リーグの序盤戦が終了した。約2ケ月半の休みをはさんで、来年1月9日に再スタートする。序盤戦の各チームの戦い振りを振り返ってみよう。

[1部男子]

今リーグの目玉は、何と言っても本田技研に移籍したストックラン、ヴォルの両フランス人選手が、日本リーグでお目見えする点だ。世界のスーパースター2人のプレーを日本各地で見れることは、競技の普及・発展という観点からも非常に高い意義を持っていると思う。予想に違わず、ストックランはフィールドゴールで1位、ヴォルも要所々々で鋭いパスやシュートを繰り出すなど、大活躍を見せている。チームも緒戦の三陽商会戦で苦杯を喫したものの、現時点で首位に躍進、昨年惜しくも逃した優勝に向けて確実に歩を進めている。

第3週終了時点で各チームが4試合を消化、早くも全勝チームがなくなり、勝ち点2(勝ち星1つ)の中に6チームがひしめき合う大混戦となっている。

本田技研と同じ勝ち点6で、ケガで戦列を離れていた趙が復帰した中村荷役が並走、これを本田技研に快勝した三陽商会、昨年の覇者・湧永製薬、韓国の大砲・朴が加入した大同特殊鋼が勝ち点1差で追っている。また、1差で追走する、大崎電気オーソルもさらに予断を許さない展開となっており、一戦々々目が離せない。

また、今年から1部に返り咲いたトヨタ車体も、大崎電気オーソルと引き分けて勝ち点1を上げたり、エース・清水が得点ランキング1位に躍り出るなど、上昇ムード一杯である。

残念なのは未だ勝ち星に恵まれず最下位に低迷している日新製鋼。ベテランが多いだけに試合の進め方には定評があるため、これからの巻き返しに期待がかかる。

ストックラン（本田技研）

[1部女子]

10月18日に予定していた大和銀行×北國銀行戦が台風10号の影響で延期となり、暫定順位であるが、こちらも既に全勝チームがなくなるという大混戦となっている。

昨年優勝のオムロンは、緒戦のイズミ戦に完敗、そのイズミも4試合目にして勝ち星のなかった日立栃木に苦杯を喫した。一方で、オムロンには敗れたものの、日立栃木、シャトレーゼ、大崎電気オーソルを撃破した立山アルミが浮上、オムロン、イズミとともに3勝1敗で3チームが並んでいる。

また、悲願の初優勝を狙う北國銀行も1敗を堅持、大和銀行戦を残しているが、得失点差で一気に首位に浮上する可能性もある。

大崎電気オーソルは2勝2敗の五分で、今後に期待がかかるし、開幕から3連敗で心配された日立栃木も全勝のイズミに土を付けるなど、上昇ムード一杯。

逆に苦しい戦いを強いられているのが、大和銀行、シャトレーゼ。大敗するケースが見られ、何とか浮上のきっかけをつかみたいところである。

[2部男子]

今年から10チームに拡大枠となった男子2部。チーム増に伴い、東西各ディヴィジョン5チームづつに分け、2回総当たり戦と、異なるディヴィジョンとの1回総当たり戦を行うという変則リーグ戦を試みている。さらに、各ディヴィジョンの1位（2チーム）と残り10チームの上位2チーム（ワイルドカード）でプレーオフを行い、最終順位を決定する。

この結果、上位2チームが1部との入れ替え戦に臨むという険しい道のりであるが、近年1部との自動入れ替えで昇格したチームがなかなか1部に定着しない、という問題を解消する手段として、期待を寄せている。

イースト・ディヴィジョンではデンソーが、ウエスト・ディヴィジョンではケー・エフ・シーと本田技研熊本が、それぞれ4戦4勝と好調な出だしである。しかし、組み合わせの関係で、これ以外のチームにも十分チャンスはある。

[2部女子]

参加チームが4チームと寂しい女子2部だが、試合の方は接戦が続いている。現時点ではブラザー工業が3戦3勝と頭一つリードしているが、昨年1部のジャスコ、そのジャスコと引き分けたソニー国分も、十分に射程距離内である。ムネカタは今後の巻き返しに期待したい。

(写真提供：ＪＨＬ運営委員会・木内兵太郎)

"不況を乗り切れ"日本リーグ

(財)日本ハンドボール協会常務理事
日本ハンドボールリーグ運営委員長　山下　泉

プロサッカーのJリーグ、横浜フリューゲルスが経営難の為に横浜マリノスに吸収合併されるというニュースが入った。この原稿を書いている時である。これまでバスケット、バレー、野球など日本を代表する企業スポーツの廃部、休部が相次いで発表され、企業の経営不振を理由にスポーツ部は切り捨てられている。長期化する不況は日本ハンドボールリーグに参加している企業も例外ではない。幸いに現在、全チームが頑張っているが、しかし何時変化が起きても不思議ではないほど厳しい状況である。

この様な経済環境下でのリーグ運営を考えると責任の重大さを痛感せざるを得ない。とにかくこの不況を乗り切る為にハンドボール界挙げての支援体制を期待し、出来ることは全部やるほどの気概を持って対応したい。

まずチーム関係者にとり大切なことは、企業がチームを所有している意義や目的を再確認し、企業の理念に添って経営者サイドに常にアピールするものを持つこと。次にホームゲームで地元の支援が得られているかどうか。企業スポーツは市民の中のスポーツとして受け入れなければ生き残れない。それには観客動員をしっかりすることである。地域のファン、企業の社員、従業員組合、出入取引業者等で構成する後援会組織を結成し、地域に根ざしたチームでなくてはならない。

日本リーグ機構について

今年から、日本ハンドボールリーグ機構を新設し、リーグ運営委員会を支援する組織改革をしました。目まぐるしい環境、社会構造の変化、急激な国際化に対応する為に日本協会あげての運営、そして企業チーム経営者の参加のもと「日本リーグ」を統括する組織が「日本リーグ機構」です。機構とは仕事をする為の組織、改革する為の組織である。当然、仕事をする為には人、物、金が必要である。

熊本男子世界選手権を実行する為に約4年前に「オーナー会議」を発足し、強化対策を中心に支援を頂きましたが、そのオーナー会議に準ずる組織と位置付け「日本リーグ部長会議」を結成し、第1回の会議を7月11日に開催した。次回に財務、強化、国際企画等の担当を決め、企業のもっている経営能力、企画力を提供して頂き、日本リーグの活性化に向けてご指導頂くことを期待している。決して資金目当で部長会議をもったのではなく、少ない財源をより有効に活用し、最大の効果を出す為に「リーグという仕事をする組織」に積極的に参加して頂くことを目的としている。

リーグのリストラ対策

去る10月31日の運営委員会で第23回プレーオフ大会（11年3月20日、21日駒沢体育館）の実行予算を10％カットすること。そして第24回リーグの大会予算も10％（対前年比）の削減を協議決定した。消極的に運営するのではなく、効率的に運営することとし、具体的には会議費の見直し、プログラムやポスターの広告費等の削減に取り組むことにした。

これまでチームの運営費の大部分を占める旅費、宿泊費については既に「ホテル指定制度」、「ANAとの提携」等実施していますが更に次の提案をしたい。

(1)　遠征費の削減、選手の帯同人員は16名とする。

(2)　平日開催をやめ、土、日の2日間で4チーム集結し、2試合を消化する。フェスティバル大会としてファンサービスや観客動員が期待出来、併せて宿泊費、交通費の削減が可能である。

(3)　広告ボードのサイズ統一

日本リーグ、全日本総合、実業団大会、国際試合等各地の開催地でその都度、広告ボードを作っているが製作費が高く実質収入が少ない。規格を90㌢×360㌢に統一し、広告文字は厚手のビニールで作り、巻いて移動することにより現場では張りつけるだけにする。運営経費に廻る率が高くなる。

(4)　ユニホームにスポンサーを

日本はヨーロッパなどに比べ遅れている。熊本の男子世界選手権やドイツの女子世界選手権を見てもユニホームだけでなくパンツまで広告が入っている。現行の日本

協会の規約は協会に高額な納付金を入れなければならない為に早急に改正し、弾力的に運用することにより財源確保に結びつけたい。

(5) スケジュール

日本リーグの日程の担当者は大変な役務である。第24回大会は15回も組替えをして決定したほどである。理由は自治体の体育館の確保が1年半前から申込、予約をしなければならないので体育館に合わせて日程を調整することになる。変更するにはキャンセル料が必要であり、無駄は出来ない。

もう一つの理由は国際スケジュールとの調整である。日本リーグの理念には日本がオリンピック、世界選手権などの国際大会で活躍することを目的としています。本年のかなかわ国体において、AHFの身勝手な日程変更の為に男子ナショナル選手（11／1～5までの北京の予選の為合宿）が不出場となり、開催地の神奈川や関係協会に多大なご迷惑をおかけ致しました。バンコックのアジア大会が世界選手権の予選を兼ねることが決定しながら突然に中東アジアと東アジアに分れて予選をすることになった為である。最近のAHFはスポーツ団体と言えないほど非常識な組織であり、特に広島アジア大会前頃、シェークアーマドがAHF会長になってからトラブルの連続である。中東での試合などはおよそスポーツの試合とは言えないものであり、東アジアの結束が急務である。そして東アジアの各国にハンドボールを普及させ、中東を上回る加盟国を参加させることである。

(6) ファンサービス

世界の一流プレーヤーと一緒にプレイし、負けてなるものかと切磋琢磨することがレベルアップになり、パワーやスピード溢れるプレイに慣れ、海外での国際試合でも自信をもって試合出来るようになる。現在、日本リーグに参加している外国人選手は世界でも一級の選手ばかりであり、チャンスと位置付けてリーグに望んでほしい。本田技研のストックラン選手が日新製鋼との試合後、サインを求めるファンに対して一人一人に話しかけながら長い時間をかけてサインしている姿を見た時、スーパースターは何をしなければならないかをよく理解し、そのファンの為にもよいプレイをする努力を惜しまないのだと感心した。日本選手もサインを求められなくても試合終了後に会場の出口でファンに挨拶する気配りが欲しいものである。照れている場合ではない。そうすることにより確実にファンは増加し、よいプレイにつなげることになると思う。

今シーズンからハガキによるファン投票（別紙）を実施している。10／31現在、245通の投票があり好評の出来である。外国選手に負けない程、頑張ってプレイし、日本が待ち望むスーパースターの出現を期待したい。ハンドボールの魅力はパワフル、スピード、テクニックであり、激突する格闘技は女性ファンを興奮させる。女性ファンを獲得することはそのスポーツを繁栄させるといわれている。確かに経験年数と高い運動能力が要求されるスポーツであるがやる気でカバーできる。

NECの関本元会長の言によれば

能力＝素質×教育

成果＝能力×やる気×つき

である。日本リーグ発展の為に全員で努力してほしい。

第23回日本ハンドボールリーグ・ファン投票用紙

お気に入りの選手にマークをつけて下さい（男女それぞれ合計7人まで）

・ポジションの左右はディフェンス側から見たものです

MEN'S

チーム名	GK	右サイド	左サイド	ポスト	右45度	左45度	センター
湧永製薬	坪根	浜本	高田	杉山	ブラマニス	中山	森山
本田技研	橋本	広政	荒木	池辺	ストックラン	ヴォル	加藤
大同特殊鋼	日原	柴田	末岡	藤井	林	朴	冨本
中村荷役	井上	阿部	八尾	泉	呉	木浪	趙
三陽商会	元村	田中(将)	田中(茂)	長岡	岩本	中川	五島
日新製鋼	宇田川	角谷	源内	伊藤	林原	坂口	林
大崎電気オーソル	佐藤(直)	近藤	辻	小野(和)	森脇	魚住	首藤
トヨタ車体	渡辺	吉田	大蔵	高杉	清水	岩本	松本

WOMEN'S

チーム名	GK	右サイド	左サイド	ポスト	右45度	左45度	センター
オムロン	山口	杉原	林	陳	石	宮本	高橋
北国銀行	沖園	小松	和田	田中(由)	田中(美)	中村	上出
日立栃木	今野	中山	伊佐野	中村	松本	白	沖土居
イズミ	村上	藤澤	青戸	橋詰	林	広瀬	呉
大崎電気オーソル	金丸	佐久川	船澤	江連	宋	金	對馬
大和銀行	山下	巽	瀬知	藤浦	星	竹田	田中
立山アルミ	本間	前山	山崎(理)	新屋	中塚	崔	鏑森
シャトレーゼ	遠藤	道端	佐藤	加藤	菅原	熊谷	稲吉

※かならず黒の鉛筆（または黒のボールペン）でご記入下さい

良い例	悪い例
●	○ ○ ○ ○ ○

・投票したい選手がマーク欄にないか、あってもポジションを代えたい時は、下の欄に記入して下さい。同じ選手を重複記入すると無効になります。

男子/選手氏名	チーム名	ポジション	女子/選手氏名	チーム名	ポジション

〔投票締め切り日〕平成11年3月10消印有効

（投票用紙は日本リーグ各会場に置いてあります）

日本リーグのホットな情報をどうぞ…

★その日の結果をその日のうちに電話で…★

・日本ハンドボールリーグ速報・テレフォンサービス（24時間通話可能）
フリーダイヤル 0120-20-2837 一般電話 052-953-9651

★ナマ情報をインターネットで画像とともに…★

・日本ハンドボールリーグの公式ホームページをご覧ください。
アドレス「http://www.jhl.handball.or.jp/」

★見どころをあなたのもとに郵送いたします…★

・日本ハンドボールリーグ運営委員会公式情報・週間「JHLニュース」
年間17回発行・¥4,000・公式プログラム・オリジナルテレカをプレゼント
（申し込み：日本ハンドボールリーグ運営委員会 TEL 03-3481-2361）

★ナマ情報をパソコン通信でリアルタイムに…★

・ニフティサーブ「ハンドボールフォーラム」8番、9番会議室で日本リーグの話題を専門にあつかっています。
アドレス ＞go fhandbal ＞ mes/8 & mes/9

第６回アジア男子ジュニア選手権大会参加所見

テクニカル・コミィティー技術委員として

西山逸成（ＡＨＦ／ＭＣ委員）

標記大会にアジアハンドボール連盟（ＡＨＦ）からの技術委員technical memberとしての要請により８月24日から９月８日までの期間バーレーン国（ＢＡＨＲＡＩＮ）のAl-Jafairのユース・スポーツ・ホールの大会に参加した。

1 技術委員会編成

①委員会議長　Mr. Syad Abul Hassan・ＡＨＦ専務理事・パキスタン（写真①）、②李之文・ＰＲＣ／ＡＨＦ・中国、③西山逸成・ＭＣ／ＡＨＦ・日本、④Mr. Bader Al-Diyab・ＡＨＦ常務理事・クウェート、⑤Mr. Ebrahim Mausa・ＣＯＣ／ＡＨＦ・カタール、⑥Mr. Jalail Asad・ＡＨＦ役員・ＣＭＣ／ＡＨＦ・バーレーン、⑦Dr. Ahmed Abu Al-Lail・ＡＨＦ常務理事・クウェート、の７名により会議や競技が管理された。ただし試合時のオブザーバーにはMr. Khalaf Maser Al-Anzi・ＰＲＣ／ＡＨＦ・クウェートが加入（除く・大阪のジュニア女子選手権大会期間）した。

2 技術委員会の職務

ＡＨＦ競技開催規則第３項を準用するもので、概要は次の内容である。

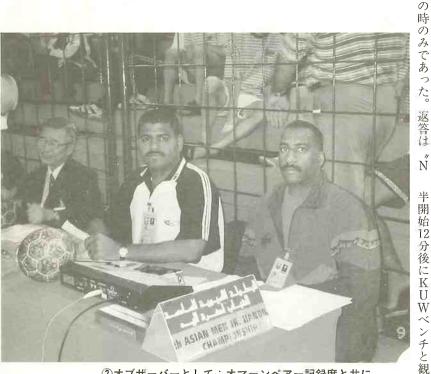
①選手権大会の監督、②試合レフェリーの割り当て＝毎日午後試合開始２～３時間前に担当レフェリーのみに通告（表１・大会成績・役員担当表）、③罰則に沿った罰則の決定と違反の報告、④試合結果の承認、⑤レフェリーの評価・報告書の作成、⑥大会報告、⑦試合のオブザーバーの指名（写真②）＝毎日２名を審議選定した、⑧選手登録・ＩＤカードのパスポートによる照合・承認＝大会初日ＵＡＥ対ＱＡＴ戦で、両チームともに20歳制限年月（世界選手権大会時に20歳未満）をオーバーした選手を参加させていたことが試合終了後発覚した。したがって技術委員会で改めて参加全選手をパスポートと照合チェックを実施した。その際さらにサウジアラビア（ＫＳＡ）にも制限年齢を越えた選手を確認したので当然試合エントリーから除外した。ＵＡＥ対ＱＡＴ戦は技術委員会で再試合（大会休日日・９月４日）を決定し、両チーム選手団長に対し個別に通告し、再試合を大会休日予定の９月４日（両チームからは技術委員会の初度チェック不備とし、納得調整に２日間を要した）に実施した。⑨競技会場・設備・用具の規則にもとづく承認＝コート周辺に３米フェンスの設置の承認は、観客スタンドからの侵入防護の目的（２人人梯で容易に侵入可能）、⑩緊急事態時の試合日程及び時刻の変更＝本大会時に技術委員会が定例会議以外に臨時に実施した主要問題は次のとおりである。

①役員席で（ＡＨＦ専務理事Mr. HASSANと共に）

（その１）レフェリー割り当ての強制変更＝９月５日早朝の定例の技術委員会ではＡ・Ｂグループの予選リーグ結果にもとづき９月５日の準決勝２試合の役員を選定した。衆目の試合評価ナンバー１のバーレーン対クウェート戦を本大会ＢＩＧ２（ジャパン・クロアチア）の何れかにレフェリングさせるかはレフェリー群や各国選手団にとっては関心事であったのだろう。テクニカルミーティングルーム前ロビーはいつになく関係者で一杯であった。レフェリーは後藤・清水ペア（日本）、控えレフェリー（カタール）、第２試合のサウジアラビア（ＫＳＡ）対中国戦はアラブ首長国連邦（ＵＡＥ）、控えはクロアチア組と通告された。日本ペアは16時30分試合開始にそなえてオフィシャル調整とウォーミングアップを終了していた。そのスローオフ５分前に、テクニカルメンバー（ＰＲＣ）から日本とＵＡＥとのレフェリー交代が通告された。交代理由はＡＨＦ会長（ＯＣＡ＝アジアオリンピック委員会

会長＝クウェート協会会長）から技術委員長への直接指示『ジャパンとクロアチアを降板し、アラビックレフェリーで実施せよ』（会長は4日にバーレーン入国）によるものであった。試合開始1時間前ではあったが、直ちに技術委員会が召集され15時から16時まで対応が論議された。対応内容は会長指示を討議する性格の内容ではなくて、日本ペアをどのペアと交代させるかという限定内容に終始した。筆者が2週間の大会期間中で技術委員会席上でたった一度だけ〝Why?〟と語気強く質問したのはこの時のみであった。返答は〝No why!〟これがかねてから噂に聞いていたAHFの体質かと残念ながら実感した。翌日の新聞3紙（付紙1）ともAHF会長への誹謗と後藤・清水ペアへの同情を写真掲載（両名は2回目）で評していた。折角前日深夜に技術委員のMr. H氏とMr. L氏と筆者の3人でバーレーン対クウェート戦の最適レフェリーについて調整したペアが水泡に帰して切歯ヤクワンした次第である。

（その2）試合中断＝9月5日順位決定第21試合（日本ペア予定であった）BRN対KUW戦、前半開始12分後にKUWベンチと観客スタンドとのフェンス越しの暴力事件（付紙2）が生じたので、技術委員会はBRN対KUW戦を中断とし、当夜の22試合（KSA対中国戦）をも中止とした。このハプニングによって発生した問題の9月6日副会長（UAE）議長の技術委員会結論は次のとおりである。

ア、再試合は翌日の9月6日に、

②オブザーバーとして：オマーンペアー記録席と共に

عن الساعات الحرجة بعد احداث «الصالة»

كويتي على الطاقم الكرواتي «المشبوه» وابعاد الطاقم الياباني

لة اعطت صورة غير حقيقية عبر «الجوال».. واشرطة الفيديو كشفت الحقيقة

إلغاء مباراتي السعودية والصين والكويت والبحرين أمس

سيناريو غريب (يعطل) بطولة اليد الآسيوية

الطاقم الياباني.. خرج ولم يعد

قصاصة الرياضية

付紙1

当初計画の24試合オマーン対韓国戦のあとに21、22の再試合を決定し、4チームに通告したが、最終日のコンディショニングの不公平等の理由で同意が得られなかった。したがって大会期間を1日延期し、9月7日に準決勝（21、22）、9月8日に1・2位、3・4位順位戦を決定したわけである。

③ 現行IHF規則を変更できないか？

通常の競技時間の長さが70分間で終了せず、大会管理やチームコンディショニングに支障を来していることは衆目の評するところで、選手の転倒やアンフェアーな行為（選手・役員・観客）による中断で著しく試合引いては大会に影響を及ぼしている。とくに転倒時には、タイムアウト的活用を意図していると想定される場面が多い。サッカー競技のように転倒プレイヤーは直ちに場外搬送処置限秒制で願いたいものである。

④ 日本選手団へのエール

筆者は大会期間中、日本協会（専務理事宛）に成績連絡・AHFの大会運営体質・日本チームの総評等を2度送信したが、そのうち日本チームへの率直な所見だけを紹介する。

③準決勝（バレーン対クウェート戦）

バーレーンの4試合でみた日本ジュニアチームは、出発前大崎電機体育館でみた素晴らしいチームとはとても考えられない程ボトムコンディションではなかったのだろうか？

第1試合10日前に出発したので、監督が抱負（機関誌No.388）とした①予測できることのすべてを伝達・指導・調整する、②選手の体調と環境への順応を考慮する、③万全の状態で大会に挑む、ことの実態がうまく合成できなかったのではと同情してみたものの、つい次のような送信や便りをしてしまった次第である。

連日40度以上—大会案内の日中気温摂氏30～36度とは10度は異なる—の猛暑のなか、ときによると体育館内は結露現象でタラフレックス（写真③）は滑りやすくなるときがあるし、連日警察官や軍隊の監視・緊張下で食事もアラビック料理で油多い調理、宿舎の冷房管理も30度水準では食欲不振・下痢等の生理不調現象は止むを得まいとは考えるが、同宿の優勝バーレーンチームと同じ水準であって欲しいとは考えないが、自己管理能力の向上努力も求めてみたい。

一方ゲーム場面での率直な所見は、ボールへの執着、勝ちにいくSpirit、動きのスピード（スタートダッシュ・ターン・ストップ）とスピードを持続するスタミナにみる基礎体力不足、そしてボールのコントロールの不確実さ等々ナショナルチーム段階以前の問題点が徹底改善されない限りは、アジアとくにアラビックジュニアには格段のハンデを背負っていると認識した方がよい。その一つとして「セービングは相手に危険を与えなければ、身を挺して床面のボールを確保できる」ことを武器として果敢なプレーが意識に先行するよう体得してみては…とも歯ぎしりしてみる。

④バレーンのナショナルに4名送出のNo.1スポーツクラブ（2100～2300）

バーレーンには17のスポーツクラブで5歳からハンドボールの選手養成を実施しており、本大会出場のバーレーンJrチームでは各クラブから選出されている（写真

Asian Junior Handball Championship

FEVER PITCH: Security officers try and restore order at last night's match against Kuwait and Bahrain. *Pictures by Abd Ali Qurba*

Rioting fans force Bahrain v Kuwait game to be abandoned

付紙2

④)。ボールの傍観的プレーがあってはチームゲームは成立しない筈とも自分を鞭打ってみる次第である。

現状水準のジュニアでは、今のナショナルは勝てても明日のナショナルはアジアに君臨することは至難のことであろう。

日本がアジアで勝つためには、絶対的に高い競技力をもつ選手作りが原点である。然る後に日本ハンドボール協会がAHF組織のリードオフマンとして各国に現状以上の発言権を持ち得よう。

表1 **ASIAN NEW Jr CHAMPIONSIP(98・8/25〜9/8)大会成績・役員担当状況**

月 日	時 間	No	試 合	GP	レフリー	オブザーバー	
8/25	(予選リーグ)	1	OMN 26:29 BRN	A	JPN	Khalaf	Ibrahim
		(2)	UAE 無効試合 QAT	A	KUW	Lie	Aldiab
8/26		3	TPE 30:30 KUW	B	QAT	Lie	Jalil
		4	KSA 29:22 KOR	B	CRO	Khalaf	西 山
8/27		5	UAE 19:33 CHN	A	JPN	Ibrahim	Aldiab
		6	QAT 24:25 BRN	A	CRO	Lie	西 山
8/28		7	JPN 27:29 KOR	B	BRN	Khalaf	Abu-Lail
		8	TPE 22:28 KSA	B	CHN	Lie	Abu-Lail
8/29		9	QAT 26:27 OMN	A	KSA	Lie	西 山
		10	BRN 28:26 CHN	A	KUW	Ibrahim	Abu-Lail
8/30		11	KUW 17:20 KSA	B	OMN	Lie	Jalil
		12	JPN 28:35 TPE	B	UAE	Lie	Ibrahim
8/31		13	CHN 29:22 QAT	A	JPN	Aldiyab	Jalil
		14	OMN 27:26 UAE	A	KSA	Lie	Abu-Lail
9/1		15	KOR 37:28 TPE	B	UAE	Jalil	西 山
		16	KUW 24:20 JPN	B	CRO	Lie	Ibrahim
9/2		17	BRN 25:22 UAE	A	KSA	Lie	Abu-Lail
		18	CHN 36:32 OMN	A	CRO	Jalil	Aldiab
9/3		19	KSA 25:21 JPN	B	QAT	Lie	Abulail
		20	KOR 20:29 KUW	B	CRO	Jalil	西 山
9/4		2	LIAE 37:30 QAT	(A)	BRN	Lie	西 山
9/5	A-1・B-2	(21)	BRN 再試合 KUW		UAE	Lie	Ibrahim
	B-1・A-2	(22)	KSA 延 期 CHN		QAT	Jalil	Abulail
9/6	A-3・B-3	23	OMN 36:43 KOR		CHN	Lie	西 山
	A-4・B-4	(24)	UAE 辞 退 TPE				
9/7	A-1・B-2	21	BRN 24:20 KUW		UAE	Lie	Ibrahim
	B-1・A-2	22	KSA 23:18 CHN		QAT	Jalil	Abulail
9/8	3・4位	25	CHN 20:23 KUW		KSA	Jalil	西 山
	1・2位	26	BRN 25:20 KSA		UAE	Lie	Abulail

列島縦断【岩手県の巻】

平成11年・協会創立50周年 そしてインターハイ開催

岩手県ハンドボール協会理事長　谷藤勝美

岩手県協会の歴史

本県にハンドボール競技が導入されたのは昭和24年4月、箱崎敬吉氏（現協会長）が盛岡高校に赴任したことに始まります。まもなく盛岡高校（現盛岡一高）、一関高校（現一関一高）、岩手高校にチームが誕生します。この年の9月に開催された第1回岩手県民体育大会直前に、正式競技として実施するため関係者有志が発起し、9月1日に本協会が設立されました。

以来、本協会は着実な躍進をし続けています。現在、中学・高校・一般合わせて108チーム、2300人の登録者を数え、審判員育成にも力を入れ、A級14名を含む、B、C級49名を登録するなど、すべての分野において充実期を迎えています。

過去の実績

昭和41年岩手・青森・秋田3県合同開催のインターハイ、44年国体リハーサル大会としての全日本総合選手権大会、45年岩手国体、42、48年国際親善大会、49年全日本実業団選手権大会、57年東日本学生選手権大会、各種東北ブロック大会を開催し、日本リーグは第4回大会を始めとして第10回大会以降本年度まで連続開催をしています。

競技面での全国大会3位以上の戦績は、インターハイで盛岡一高が昭和36年3位をはじめ、女子の花巻南高が41年2位、翌42年は悲願の初優勝を果たしました。さらに、平成5年の選抜大会では盛岡二高が3位になりました。国民体育大会に於いては、盛岡一高が昭和26年3位、36年2位、花巻南高が42年2位、45年地元岩手国体で少年男子・岩手教員が3位に入賞しました。全国高専では、一関高専が50年2位、51年に優勝、54年2位、58年3位を記録しています。

このような戦績の中で、日の丸をつけ日本代表として、北村尚英（第5回世界選手権大会）、山田帆波（第2回世界女子選手権大会）、菊池悟（モントリオール）、首藤信一（ソウル）等を輩出し、それぞれに活躍しました。

最近の状況

平成11年岩手インターハイに係わり、中高一貫した強化策が実り始め、ここ数年全国中学校大会、JOCジュニアオリンピックにブロック代表として男女ともに全国に駒を進めることに成功しています。高校は、韓国遠征（高体連事業）、アドバイザリーコーチ招聘事業、県外遠征等で力をつけており、競技力はインターハイ・国体ベスト8の力を有するほどにアップしています。しかし、全国ベスト4の壁は厚く、これを打ち破るには、この先相当の努力が必要と思われます。成年に関しては、年間を通じて社会人リーグ戦を行い、県内チャンピオンシップ（一部）とハンドボールが飯より好きという（二部）大会が開催され、なかなか時間の取れない選手強化の場として、また憩いの場となっています。今年8月下旬に行われた第25回東北総合体育大会（国体ブロック予選会）では、少年男女・成年男子の3種目で優勝、成年女子は3位入賞で全種目国体出場を果たし、県協会史上初めての快挙を成し遂げ、国体での活躍が期待されます。

平成11年インターハイに向けて

「飛びたとう　岩手の空に　夢はせて」をスローガンに20世紀最後の年に開催される岩手インターハイは、平成11年8月2日から7日まで県都盛岡市内体育館で行われます。当初、岩手大学グランド（4面）と、それに付属したすぐそばの体育館（2面）で実施予定でした。しかしその後、全国専門部から、何とか体育館で試合をさせたい、会場の確保をお願いしたい旨の話が持ち上がります。この会場問題では右往左往しましたが、県実行委員会、高校体育連盟、県専門部の努力により6会場の体育館で実施される運びとなりました。ただ、会期の差はあるものの盛岡市内で7競技が実施される関係で、市内への宿泊には無理が生じ、近郊の温泉施設を利用せざるを得ない状況となり、移動に時間のかかる懸念があります。

開催期日まで、残り少ない月日ですが県協会、県高体連専門部と共に選手強化はもちろんのこと、競技役員、補助役員の研修等に最大の努力をし、全国各地から参加される選手、役員の方々に『みちのく岩手に来て本当に良かった』と思い出に残るインターハイとし、全国高等学校ハンドボール専門部50周年に花を添えることが出来るよう全力で務めたいと思います。

寄稿

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）訪問記２

身近になった国際情報

―直接取れるＩＨＦ情報―

茨城県立中央高等学校　北村善夫

　昨年に引き続き、ドイツを中心としたヨーロッパ科学史巡礼旅行に行ってきました（機関誌7月号既報）。2回目ということもあり前回ほどの戸惑いもなく、今回もバーゼルのＩＨＦ本部訪問の計画を立てました。昨年は、アポなしで直接押しかけてしまったためご迷惑をかけてしまった経緯があり、今年は事前にそれなりの手続きをとりました。日本を発つ前に手紙を出し来訪の意を告げ、ドイツに着いてからは電話でアポを取ることにしました。あいにくヨーロッパの夏はバカンスの季節で長期の休暇を取る人が多く、事務総長のベイクフィールド氏に会う約束が出来たのが帰国の前日でした。1年ぶりの訪問に公務多忙の中時間を割いて下さり再会を果たすことが出来ました。

　今回の訪問では多少、ＩＨＦに対しての予備知識を持っていったおかげで、いろいろなことを聞くことが出来ました。なかでも、ＩＨＦの広報活動についてです。ＩＨＦは世界のハンドボールを統括し、各国協会と連携を取る機関ですが、それにも増して個人を大切にする機関だということです。今回はそのことについてレポートしたいと思います。

●インターネット

　インターネットによる情報公開は全世界的なものとなっており、ハンドボールの世界も例外ではありません。ＩＨＦ本部には専門の職員が専属でいました。アレキサンダー・ジールマン氏です。部屋にはコンピュータが一台あり、それが全世界とつながっており、訪問したときはビデオ紹介のためのタイトル画面をスキャナーで取っていました。印象的なことは、部屋中がＫＩＳＳのポスターで埋め尽くされていることです（写真）。氏の名刺には「ＫＩＳＳコレクター」と書いてありました。情報は毎日更新されているので、どんどんアクセスして欲しいとのことでした。

●ワールドハンドボールマガジン

「ワールドハンドボールマガジン（ＷＨＭ）」の最新号を頂きました。機関誌で取り上げられている「ＩＨＦニュース」の多くもこれから取り上げられています。以前から入手方法が気になっていたのですが、直接個人でＩＨＦから定期購読できるようです。ＩＨＦにＦＡＸで申し込めば、2年間（8冊）で100スイス・フラン（約9000円）だそうです。内容はＩＨＦ・各大陸連盟、世界のスター選手の情報からニュース、技術論、ルール関係やトピックスなどです。写真も豊富で、ＩＨＦの公用語であるドイツ語、英語、フランス語3つの言語で同じ内容が書かれているので語学学習（？）にもなります。

　全世界からのＦＡＸは2階の事務室に入ります。インターネットのコンピュータと同様に、この小さなコンピュータが世界とつながっているのかと思うと不思議な気がしました。

●ＩＨＦビデオ

　ＩＨＦの広報活動の1つはビデオの作成だそうです。これらのビデオは直接購入が出来ます。申し込みはＦＡＸで行い、1本当たり平均35スイス・フラン（約3200円）です。今回もお土産に何本かのビデオを頂きました。内容は、アトランタオリンピック、女子世界選手権、ジュニア世界選手権などです。熊本で世界のプレーを目の当たりにした者として、世界のプレーが見られるビデオは大変興味のあるものではないでしょうか。

　今回の訪問を通して感じたことは、情報はこちらからアクセスすれば得られるということでした。しかしやはり問題になるのは言葉の問題で、もっと頑張らねばと思います。

　最後に公務多忙な中、時間を割いていただいたベイクフィールド氏と職員の皆様に感謝したいと思います。

第15回男子世界学生選手権大会
'98・12月27日～1月10日（新ユーゴスラビア）
参加選手団決定

選考経過

1997年5月に全国8学生連盟、日本ハンドボール協会強化委員会の推薦選手50名を第一次選考。その後、97ジャパンカップ、97インカレ、98選考合宿、98ヒロシマ国際、先のロシア遠征を最終選考会として、メンバーを決定した。

大会のエントリーは14名であるが、U－23からは12名を選考し、研修遠征としてU－19チームから別記の7名を帯同、ドイツ・ハンガリーの強化及び調整合宿（試合約10試合予定）でこの中から2名を選考して、最終的にU－23チームの12名及びU－19の2名を加えた14名エントリーで大会に参加する。

第14回男子世界学生選手権大会で研修選手として帯同した所（当時＝ジュニア）・吉井（学連推薦）が、その経験を生かして、チームの中軸として活躍しているため、U－19の中から次回を見据えて、将来の全日本を育てる人材育成を図り、U－19とのジョイント活動として7名を帯同する事となった。

福地賢介団長評

現時点で参加申し込みが確認できたのは、日本・ブラジル・ハンガリー・ラトヴィア・ベルギー・ベラルーシ・トルコ・アルジェリア・クロアチア・キプロス（サイプラス）・フランス・ロシア・ナイジェリア・ポルトガル・スロバキア・ウクライナ・グルジュア・台湾・開催国であるユーゴスラビアの19ケ国であるが、これにルーマニアあたりが参加ではないかと思われる。

抽選結果を見ないと何とも言えないが、第12回大会（ロシア）、第13回大会（トルコ）、第14回大会（ハンガリー）と3大会ともに、オーストリア・ロシア・ハンガリーと優勝国が異なるように学生界の変動を物語っており、各大会共に準決勝リーグ進出国は優勝国とは紙一重、その日の状況如何と言った実力的には差のないもので、優勝国を占うのは厳しい状況である。

前々回（トルコ開催）優勝のロシアは、先のロシア遠征の時に、アレキサンダー会長は『若手育成の立ち遅れがあって、前回の世界学生では最低の成績であった。今回は前回大会参加選手中心で再度出場見込みで』との事であり、優勝候補筆頭にあげられる。

前回優勝のハンガリーは、熊本の世界選手権大会の時からナショナルメンバーの新旧入れ替えの時期とされて、前回メンバーはナショナルへの昇格で新メンバーでの参加と思われ、未知数である。

前回、前々回準優勝のトルコが初優勝なるか注目される。2大会連続準優勝であり、若手の育成に熱心であって、今回も優勝候補の一角に上げられる。

日本は、前回大会で上位進出の原動力となった佐々木・岩本・清水・池辺など大型（190ｾﾝﾁ台）ディフェンダーの不在で、ヒロシマ国際、ロシア遠征でも守備力不足を露呈していたが、この点の課題のクリアーが上位進出のための大きなカギとなっている。

今回のチームの指揮は、ロシア・トルコ・ハンガリーの3大会でコーチを勤めた、経験も豊富な松ヘッドコーチが指揮を取る。アシストするコーチ陣は、ケルン留学中の松井前監督が総合コーチとしてドイツから合流、次代の指導陣の一画を担う玉村・田村両コーチがサポートする体制である。

前回の6位進出の大きな支えになったのが、沖本ドクター・川波トレーナー（濱脇病院）のメディカルメンバーであった。今回、沖本ドクターの引き続いての参加（川波トレーナーは仕事の都合で

不参加）があり、立野トレーナーとの新コンビでのメディカルサポートに期待している。

松　喜美夫監督評

前回大会での6位を越える事を目標にして、スタッフ一同、大会参加へ強化を進め上位進出をねらっている。

今回、U―19の研修選手の帯同から2名のエントリー枠を設けるなど新しい試みも行い次回のために、また、さらに、日本協会強化委員会の強化の一貫の流れの中で強化のためにもU―23全日本学生選抜として、全日本選手に繋がるものを残したいと思っている。

オフェンスは、所を中心に何とかある程度の得点力が見込めるようになってきているものの、ヒロシマ国際・ロシア遠征では、対外人・大型プレイヤーと戦う際の課題であったディフェンスの整備がポイントとなっており、この点を何とか強化したいと思っているので、ドイツから合流する松井コーチも交えて、スタッフ一同協力して、この点を再整備し、頑張りたい。

第15回男子世界学生選手権大会参加選手団

役職	氏名	所属
チームリーダー	福地賢介	（全日本学連理事長・日本協会強化委員）
ヘッドコーチ	松　喜美夫	（全日本U―23監督・函館大学監督）
総合コーチ	松井幸嗣	（全日本学連理事・日本協会強化委員・ケルン大学・C級コーチ）
コーチ	玉村健次	（全日本U―23コーチ・湧水製薬株式会社）
コーチ	田村修治	（全日本U―23コーチ・東海大学監督・C級コーチ）
ドクター	沖本信和	（日本協会医科学委員会・濱脇病院）
トレーナー	立野伸一	（日本協会医科学委員会・熊本日赤病院）
レフェリー	後藤　登	（日本協会審判委員会・国際審判員）
レフェリー	清水宣雄	（日本協会審判委員会・国際審判員）
総務兼通訳	岩崎みどり	（株式会社エモックエンタープライズ）

プレイヤー（U―23）12名

ポジション	氏名	大学	学年	身長	体重	出身校	利き腕
GK	吉井丈晴	日本大学	4年	182cm	82kg	東京高校	右
GK	谷川一寿	福岡大学	4年	184cm	82kg	久工大付	右
CP	所　努	早稲田大学	4年	173cm	64kg	香川中央	右
CP	小藪憲次	中央大学	4年	176cm	70kg	桃山学院	右
CP	武藤崇之	早稲田大学	4年	180cm	82kg	盛岡一高	左
CP	下川真良	大阪体育大学	4年	170cm	65kg	北陽高校	右
CP	小川友康	筑波大学	4年	177cm	65kg	小松工高	左
CP	永島英明	大阪体育大学	4年	188cm	80kg	此花高校	右
CP	瓜生直季	法政大学	4年	189cm	83kg	春日高校	右
CP	古家雅之	筑波大学	3年	184cm	73kg	桃山学院	右
CP	松林克明	日本体育大学	3年	181cm	70kg	桃山学院	右
CP	鶴見　拓	日本大学	3年	175cm	64kg	土浦日大	左

帯同研修選手（U―19）7名

ポジション	氏名	大学	学年	身長	体重	出身校	利き腕
GK	高木　尚	日本体育大学	2年	189cm	80kg	北陸高校	右
CP	窪小谷貴浩	日本体育大学	2年	197cm	88kg	学法石川	右
CP	小倉　学	日本体育大学	2年	190cm	84kg	霞ヶ浦高	右
CP	前田誠一	日本体育大学	1年	183cm	74kg	浦和学院	左
CP	沢田俊祐	国士舘大学	1年	180cm	80kg	明星高校	右
CP	豊田賢治	国士舘大学	1年	180cm	72kg	浦和学院	左
CP	柳本義文	日本体育大学	1年	170cm	72kg	久工大付	右

日　程　1998年12月10日～12月18日　ドイツ強化合宿
12月18日～12月26日　ハンガリー調整合宿
12月27日～ 1月10日　本大会及び研修

場　所　新ユーゴスラビア国ノビサト市

試　合　予選リーグ・準決勝リーグ・順位決定戦方式

IHFニュース

過去のすべての世界大会のIHFランキング決まる

総合チャンピオンはユーゴスラビア

過去3回にわたって掲載してきたIHFランキングの最後として、総合ランキングが発表された（機関誌では7月号に世界選手権ランキングを掲載）。これは過去から現在にわたっての各国連盟の成績とも言えよう。表では、11人制の世界選手権、オリンピック、7人制の世界選手権、ジュニアの世界選手権について、男女の大会別に得点を示した（ポイント方法は7月号を参照）。

総合結果は、ユーゴスラビアが、ソ連、デンマーク、ルーマニア、スウェーデンやハンガリーを抑えてチャンピオンとなった。しかしながら表中においては、東欧諸国の再編によりソビエトとロシアというように2つの国に分けてポイントされているものもある。これは東西ドイツと、ドイツについても同じである。これらのことを考慮に入れれば、異なった結果になったかもしれないことを付け加えておく。

しかしながら、このことはユーゴスラビアの評価を決して下げることとはならない。ユーゴスラビアがハンドボール競技における過去から現在までの総合チャンピオンの栄誉に輝いたことは素晴らしいことである。

世界選手権大会での日本の順位は男子19位、女子13位であったが、今回の総合順位ではアイスランドと同じ19位と後退している。これは11人制時代のポイントが無いこともあるが、上位国に比べて男子ジュニア、女子のオリンピックのポイントが低いためとも考えられよう。今後の、ナショナルチームのますますの活躍に期待をしたい。

7月号の項でも述べたことであるが、国名が変化したり、新しい国が誕生したりスポーツの世界においても国際情勢が無関係でないことが表から読み取れる。またハンドボール競技はヨーロッパ、特に東欧諸国、スカンジナビアにおいて盛んであることは特筆されよう。

また各国において男女の力の入れ具合が異なっているのもおもしろい。たとえば、アイスランド、エジプトのように女子の活動が全く行われていない国もあれば、ノルウェー、中国のように女子の活動が盛んな国もある。

世界大会の総合順位

		男子					女子					
		11人制世界選手権	オリンピック	7人制世界選手権	ジュニア	合　計	11人制世界選手権	オリンピック	7人制世界選手権	ジュニア	合　計	総合計
1	ユーゴスラビア	11	66	112	130	319	11	42	128	93	274	593
2	ソ　連*	—	73	91	120	284	—	58	99	126	283	567
3	デンマーク	43	30	130	104	307	11	16	111	117	255	562
4	ルーマニア	25	72	129	44	270	32	12	133	73	250	520
5	スウェーデン	67	59	179	111	416	—	—	25	46	72	488
6	ハンガリー	22	63	98	55	238	29	38	144	28	239	477
7	チェコスロバキア*	23	40	121	65	249	13	22	105	32	172	421
8	東ドイツ*	30	50	73	71	224	—	24	85	45	154	378
9	西ドイツ*	30	37	72	50	189	—	27	92	65	184	373
10	ドイツ	64	31	76	21	192	27	22	40	25	114	306
11	韓　国	—	29	23	20	72	—	60	52	115	227	299
12	ポーランド	33	28	54	47	162	10	—	80	44	134	296
13	フランス	20	25	72	67	184	22	—	12	65	99	283
14	ノルウェー	—	7	26	30	63	—	40	96	69	205	268
15	スペイン	—	53	61	103	217	—	9	3	16	28	245
16	オーストリア	57	14	17	13	101	40	21	46	22	129	230
17	スイス	89	38	45	21	193	—	—	—	6	6	199
18	ロシア	—	11	43	32	86	—	—	33	38	71	157
19	アイスランド	—	34	53	65	152	—	—	—	—	0	152
19	日　本	—	23	24	10	57	—	11	43	41	95	152
21	アメリカ	8	37	4	3	52	—	38	19	9	66	118
22	中　国	—	—	2	3	5	—	34	22	56	122	117
23	オランダ	37	—	—	6	43	12	—	25	36	73	115
24	エジプト	—	15	24	48	87	—	—	—	—	0	87
25	ブルガリア	—	—	5	—	5	—	—	10	53	63	68
26	クロアチア	—	16	17	6	39	—	—	16	3	19	58
27	アルジェリア	—	22	14	10	46	—	—	2	7	9	55
28	ウクライナ	—	—	—	14	14	—	—	7	19	26	40
29	ポルトガル	—	—	2	24	26	—	—	—	10	10	36
30	ブラジル	—	9	2	8	19	—	—	3	13	16	35
31	カナダ	—	5	—	—	5	—	10	7	8	25	30
32	イタリア	—	—	2	13	15	—	—	—	12	12	27
33	アンゴラ	—	—	—	—	0	—	9	12	5	26	26
34	ナイジェリア	—	—	—	6	6	—	8	—	10	18	24
35	ベラルーシ	—	—	7	3	10	—	—	3	10	13	23
36	チュニジア	—	3	6	8	17	—	—	4	—	4	21
37	キューバ	—	5	15	—	20	—	—	5	—	0	20
38	アイボリーコースト	—	—	—	—	0	—	8	6	6	19	19
38	チェコ	—	—	13	—	13	—	—	4	—	6	19
38	スロバキア	—	—	—	3	3	—	—	—	12	16	19
38	トルコ	—	—	—	11	11	—	—	4	8	8	19
42	コンゴ	—	—	—	—	0	—	10	—	4	18	18
43	クウェート	—	8	—	7	15	—	—	2	—	0	15
43	スロベニア	—	—	2	8	10	—	—	9	3	5	15
45	マケドニア	—	—	—	3	3	—	—	—	2	11	14
46	イスラエル	9	—	—	3	12	—	—	—	—	0	12
47	フィンランド	—	—	—	11	11	—	—	—	—	0	11
47	ギリシャ	—	—	—	11	11	—	—	—	—	0	11
49	アルゼンチン	—	—	1	7	8	—	—	—	2	2	10
50	リトアニア	—	—	6	—	6	—	—	3	—	3	9
51	サウジアラビア	—	—	1	6	7	—	—	—	—	0	7
51	ルクセンブルグ	6	—	—	1	7	—	—	—	—	0	7

＊は現在はない国名

訃　報

教職員連盟名誉会長の高橋健夫氏が、10月4日ご逝去なされました。

高橋氏は、日本ハンドボール協会理事、評議員などを歴任なされ、数々のご功績を残されました。生前のご厚情に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

元国際審判員の北井晴次氏が、10月2日急逝なされました。北井氏は審判員のキャリアはもとより、1967年スウェーデンで行われました世界選手権にナショナル選手として参加をされ、ご活躍なされた名プレーヤーでもありました。また、埼玉教員としてプレーされる傍ら、現在全国トップレベルにある埼玉の高校界の基盤を作り上げられました。

審判員としては、国際審判員の資格を取得されるや、ペアーの上久保重次氏とともに各国際大会で名ジャッジをしてこられました。国内大会では、日本ナンバー１ペアーとして全日本総合を歴代のペアーとしては、一番多く決勝を担当されました。

享年55歳という若さで、これから益々日本ハンドボール界のご指導をいただけるという矢先でした。誠に残念と言わざるをえません。

全国の皆様にご連絡申し上げるとともに、北井氏のご冥福をお祈り申し上げます。

12・1月の行事予定

第50回全日本総合選手権大会（男女）
　12月23日 ～26日；神戸グリーンアリーナ
ＪＯＣジュニアオリンピックカップ
　12月25日～27日；堺市金岡体育館
第15回男子世界学生選手権大会
　12月28日～1月7日；新ユーゴスラビア
常務理事会；12月23日・神戸市
第13回アジア競技大会（下記日程参照）
　事務局；仕事納め　12月26日（土）
　　　　99年仕事初め 1月6日（水）
第23回日本リーグ（後期）1月6日～3月14日（各地）

アジア大会女子日程	
12月9日	日本×朝鮮民主主義人民共和国
10日	日本×中国
11日	日本×タイ
12日	日本×韓国
13日	
14日	日本×カザフスタン
15日	女子帰国

アジア大会男子日程

オマーン、バングラデシュ、サウジアラビアの出場辞退により、日程変更となり未定。

日本リーグ日程変更のお知らせ

10月18日に開催予定でした女子１部・大和銀行×北国銀行、男子２部・トヨタ自動車×トクヤマの試合は、台風10号の影響で、下記のように延期されて開催となりました。

■平成11年1月14日（木）19：00～
　堺市家原大池体育館
　大和銀行×北国銀行
■平成11年1月27日（水）　16：30～
　守口市民体育館
　トヨタ自動車×トクヤマ

テレビ放映予定

スカイＡ（第13回女子世界選手権大会放送予定）
　12月12日（土）　18：30～20：00　韓国×クロアチア
　12月18日（金）　22：00～23：30　ドイツ×ロシア
　12月20日（日）　18：00～19：30　ノルウェー×デンマーク
ＴＶＫ（日本リーグ放送予定）
　1月10日（日）　16：35～18：00　中村荷役×大同特殊鋼
　　　　　　　　18：30～20：00　三陽商会×日新製鋼
NHK・BS アジア大会3試合を放映予定（カードは未定）

HAND BALL CONTETS NOVEMBER

柔らかな感触で、最適なバウンド!

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三九二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十年十一月二十六日印刷 平成十年十二月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む